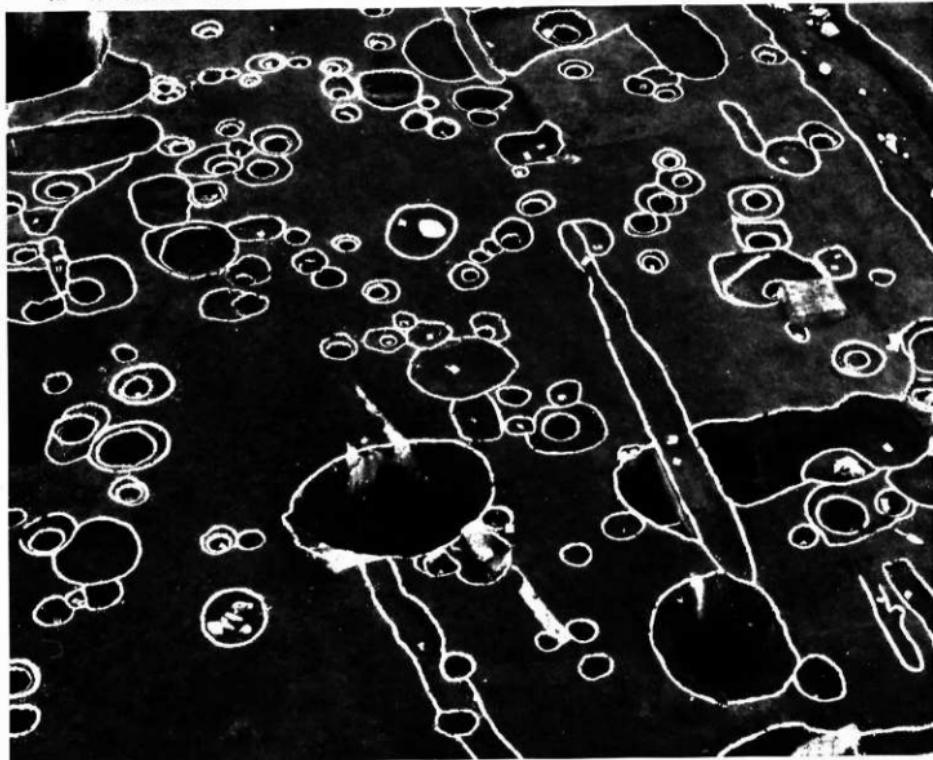


西ノ辻遺跡第16次発掘調査報告書（遺物編）

附 神並遺跡第4次、西ノ辻遺跡第10・16次発掘調査出土木質遺物データベース CD-ROM



財団法人 東大阪市文化財協会

2002

西ノ辻遺跡第16次発掘調査報告書（遺物編）

附 神並遺跡第4次、西ノ辻遺跡第10・16次発掘調査出土木質遺物データベース CD-ROM

財団法人 東大阪市文化財協会
2002

例　言

1. 本書は、東大阪生駒電鉄株式会社が実施した東大阪都市高速鉄道東大阪線建設、大阪府八尾土木事務所が計画した国道308号線および都市計画道路築港枚岡線建設の2事業に伴う西ノ辻遺跡第16次発掘調査で出土した遺物の概要報告書である。本調査は財団法人東大阪市文化財協会が、東大阪生駒電鉄ならびに大阪府八尾土木事務所の委託を受けて実施した。

2. 現地の発掘調査は、工事予定地の2827m²を対象に、1984(昭和59)年5月24日～1985年4月3日の期間に実施し、その後現地の記録と出土資料の整理を行った。本書は下記の調査担当者が編集した。本調査で検出された遺構の概要是、隣接調査区の遺構とともに『神並遺跡第4次、西ノ辻遺跡第10・16次発掘調査報告書(遺構編)』にまとめた。

3. 発掘調査および整理作業は以下の事務局体制のもとにすすめた。

事務局長 寺沢勝(東大阪市教育委員会文化財課課長)

庶務部長 吉田照博(東大阪市教育委員会文化財課課長代理)

調査部長 原田修(東大阪市教育委員会文化財課主査)

庶務部 安藤紀子(東大阪市教育委員会文化財課)

上野節子(財団法人東大阪市文化財協会)

調査担当 松田順一郎(財団法人東大阪市文化財協会)

中西克宏(財団法人東大阪市文化財協会)

4. 現地の調査と出土遺物の洗浄、注記、接合と実測図の作成などの整理作業には以下の方々が補助員として従事した。

綾部正樹 右削珠貴 植田雅美 江川義信 遠藤裕也 奥田美香 川村美保 北山邦彦 小林辰生
阪田知代子 咲本勝巳 國田義明 高地久美子 高野由美子 多田芳美 為井通子 中谷誠

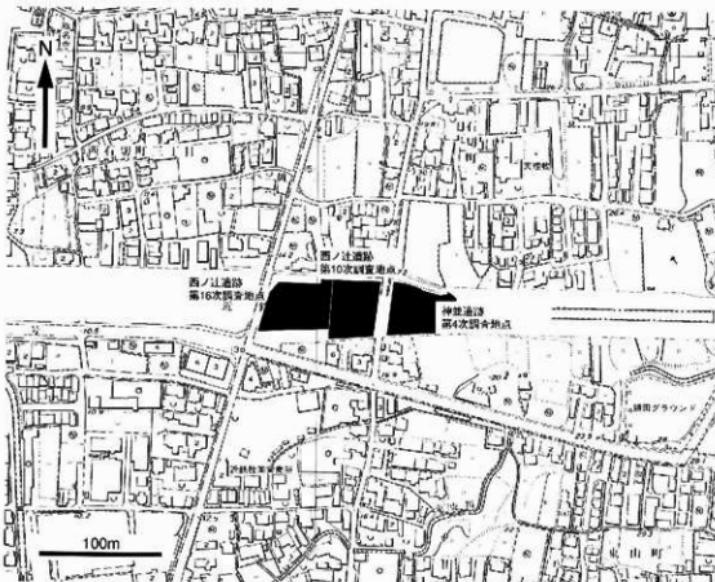
中道真司 夏原宜左子 西村慶子 垣田伊公子 八田美代子 原田拓也 幸松登喜子 福田英輝

外村幸雄 前澤徹 宮川典子 村上山紀子 村口始 森本好則 森山秀彦 安居勝善 萩野雅子
山崎史郎

4. 現地の空中写真測量は国際航業株式会社に委託して実施した。本文に掲載した遺物写真の撮影はスタジオGFプロに委託した。本質遺物データベースCD-ROM所収の遺物写真は担当者と補助員が行い、樹種同定は京都大学木材研究所 林唱三先生と株式会社パリノ・サーヴェイに委託した。木器、金属器の保存処理は(財)元興寺文化財研究所に委託した。

目 次

1 調査に至る経過.....	1
2 出土遺物.....	1
2.1 鎏金・平安時代の遺物.....	1
2.2 奈良・平安時代の遺物.....	4
2.3 古墳時代後期の遺物.....	8
2.4 古墳時代中期末から後期初頭の遺物.....	8
2.5 弥生時代の遺物.....	10
3 まとめ.....	14
遺物観察表.....	17
遺物実測図.....	23
遺物写真.....	47



1 調査に至る経過

1970年代の後半に、大阪府と奈良県を結ぶ近畿日本鉄道奈良線は近年の人口増加によって輸送能力の限界をむかえたため、地下鉄中央線を延長し、奈良県生駒市と結ぶ新鉄道建設が計画された。同時に国道308号線の整備と共に並行する阪神高速道路の延長もあわせて計画された。しかし、これらの開発予定地内では、すでに鬼虎川遺跡、西ノ辻遺跡などが周知されており、その周辺でも未知の遺跡が存在すると予想された。このため、東大阪生駒電鉄株式会社、大阪府八尾土木事務所は、大阪府教育委員会、東大阪市教育委員会と協議を行うとともに、建設予定地内の試掘調査と周知の遺跡の発掘調査を大阪府教育委員会、東大阪市遺跡保護調査会、国道308号線関係遺跡調査会と1982年に発足した財団法人東大阪市文化財協会に委託・実施した。

その後石切神社参道以東で行なわれた試掘調査では、縄文時代、奈良時代、中世の遺構、遺物が検出され、神並遺跡が周知の遺跡に加えられた。そこで便宜的に旧国道170号線の東を並行して走る東高野街道より東を神並遺跡、西を西ノ辻遺跡と呼ぶことになった。

西ノ辻第16次調査は西石切地区の鉄道および道路建設予定地内の2927m²を対象とし、旧国道170号線東側、西ノ辻遺跡第10次調査区の西隣で、1984（昭和59）年5月24日から1985年4月3日までの期間に実施された。調査の結果、神並遺跡第4次調査区から続く埋没開析流路の下流部分が検出され、充填堆積物から弥生時代中・後期の土器や古墳時代の水利遺構が検出された。これらの上には、古墳時代以後の堆積層が載り、これをベースに中世の遺構群が検出された。遺構面の上部は削平を受けているものの、遺構の密度は高く、鎌倉～室町時代の井戸、溝、土壙、柱穴、土壤茎などがみとめられた。また、遺構からは多数の遺物が出土した。

2 出土遺物

出土遺物は、室町時代～鎌倉時代の上器類、木器、金属器、錢貨、石製品、奈良・平安時代の土器類、古墳時代(5世紀～6世紀)の上器類、木器、弥生土器、石器である。中世の遺物のほとんどは、造構ないし小規模な凹地で出土し、古墳時代、弥生時代の遺物は埋没開析流路の充填堆積層から出土した。以下に図化できた遺物について記載する。

2.1 鎌倉・室町時代の遺物

鎌倉・室町時代の遺物は、井戸、溝・溝・溝・柱穴などの遺構や包含層から土器類・陶磁器類・瓦類・土製品・石製品・金属製品・木製品などの人工遺物のほか、獸骨・種子類をはじめとする自然遺物が出上している。

2.1.1 土器

出土した土器類には、瓦器・土師器・須恵器がある。以下に、各器種ごとにみられる各器形の特徴の記述をおこなう。さらに、法量・形態・文様・製作手法の特徴によって細分できるものについては、分類項目を加えることとする。

なお、この分類は、原則として「西ノ辻遺跡第10次発掘調査（遺物編）」に準拠しているが、新たな器形や変更したものについては、追加・修正をおこなっている。

瓦器

瓦器には、椀・小皿・釜・擂り鉢・火舎・壺などの器形がある。

椀

椀A 口縁端部内面に沈線をもつもので、いわゆる大和型の椀。高台をもつものと、ともなわないものがある。

椀B 口縁端部を丸くおさめるもので、いわゆる和泉型の椀。高台のあるものと、ないものがある。

小皿

小皿A 口縁端部を丸くおさめるもの。底部は平底を呈する。

小皿B 口縁端部に内傾する面をもつもの。

釜

口縁部の形態によって細分できる。

釜A 口縁部は内傾し、端部を平坦な面におさめるもの。口縁部に数条の沈線を施す。体部外面は、ケズリ調整。

釜B 口縁部の形態は、釜Aと同^一。沈線を施さないもの。体部外面は、ナデ調整。

釜C 口縁部は内傾し、端部を丸く仕上げるもの。口縁部に数条の沈線を施す。体部外面は、ケズリ調整。

擂り鉢

平底の底部にハ子形にひらく体部がつく。内面には、横方向のスリ目を施す。口縁部を片口に仕上げたものもある。口縁端部の形態によってさらに細分できる。

擂り鉢A 口縁端部か内傾する面を呈するもの。口縁部外面は、ハケ目調整。

擂り鉢B 口縁端部が三角形状に尖るもの。外面調整にケズリ調整を用いる。

土師器

土師器には、皿・釜などの器形が認められる。皿の出土量は土器の中で最も多い。

皿

口径10cm未満のものを小皿、10cm以上のものを中皿とする。小皿・中皿とも底部および口縁部の形態によって以下のように細分する。

皿A 平底を呈するもので、口縁端部がつまみ上がり、やや尖り気味のものA1と口縁端部を丸くおさめるものA2がある。

皿B 平底のもので、口縁端部をつまみ上げ、尖り気味におさめるものB1と口縁端部を丸くおさめるものB2がある。

皿C 上げ底を呈するもので、口縁部がつまみ上がり、口縁部を尖り気味に仕上げるものC1と口縁部を丸くおさめるものC2がある。

釜

形態の特徴によって3種類に細分できる。

釜A 内傾する肩部に鈎をもち、口縁部が外反する。口縁端部を内側上方に玉ぶち状に丸くおさめる。

釜B 球形に近い体部から内傾する肩部に鈎をもち、口縁部を外反させる。端部を丸くおさめるものと肥厚気味につくるものがある。

釜C 内傾する肩部に断面が三角形の短い鈎をもち、口縁部が外反する。上端部を内側に肥厚させる。

須恵器

甕・鉢・壺がみられる。おおむね東播系である。

壺

口縁端部が下方に外折するものと端部の上面に凹線または凹みをもつものがみられる。

鉢

口縁部の形態から4種類に分けることができる。

鉢A 口縁端部の断面形がほぼ矩形を呈するもの。

鉢B 口縁部の下端部を下方に拡張し丸くおさめる。上端部はそのままで観角をなす。

鉢C 口縁部の上端部は上方につまみ上がる。

鉢D 口縁部の上下を拡張するもの。

陶器

出土量は瓦器・上師器に比べると極めて少ない。常滑・瀬戸・備前焼などがある。器形には揃り鉢・壺・壺が認められる。

輸入磁器

輸入磁器には、白磁・青磁がみられる。ともに碗が多い。

白磁 碗・皿などが検出されている。

青磁 青磁は、龍泉窯系と同安窯系の碗・皿が出土している。

2.1.2 土製品

出土した土製品には、土鍤がある。

土鍤

長さ3cm前後・直径1cm程度の紡錘形を呈する上師質のもののほか、長さ8cm、直径3cmを測る大型で瓦質のものが1点出土している。

2.1.3 瓦

出土した瓦には、丸瓦・平瓦・軒瓦がみられる。全出土量は、コンテナ3箱程度である。軒瓦には、軒丸瓦があるものの軒平瓦はまったくみられない。軒丸瓦は、巴文をもつ。

2.1.4 石製品

石製品には、砾石がある。砾石は、砂岩製で2~6面の研面がある。

2.1.5 金属製品

金属製品には、鉄釘・包丁・止め金具・錢貨などがある。

錢貨

出土しているものには、至道元宝・元豐通宝・聖宋元宝・皇宋通宝・祥符通宝・淳化元宝など多種類ある。

2.1.6 木製品

主に井戸内から出土している。木製品には、曲物・折敷・鎌柄・匙形木器・呪符・木鍤・漆器・容器底板・下駄・桶・人形などがある。

曲物

すでに側板が破損し、全形態の判明するものはない。平面形は、円形を呈する。円形曲物の制作技法は、円板のうえにひとまわり小さい側板をあてて、円板に2孔1対、側板に1孔の結合孔をあけ、紐で結合したものと円板を側板の内側にはめ込み、側板の上から木釘を打ち込んで結合したものがある。釘結合曲物の側板は、円筒形に曲げるため、内面にケビキを入れる。ケビキは、継平行線・斜平行線・この両者を組み合わせ斜格子に入れるものに細分できる。また、法量によって分類することもできる。

折敷

出土しているものは、底板のみで全形を知り得るものはない。底板は、隅丸方形を呈する。側板を

結合するための結合孔や組の残っているものもみられる。

鎌柄

割り材からつくり断面が楕円形を呈する。柄尻の腹面側に山形の突起をつくりだし、柄元の側面から幅の狭い縦長の柄孔を斜めに貫通させて刀の装着孔とする。柄の握りは、刃先側にやや屈曲する。鉄製の刃を装したままの数少ない例である。

匙形木器

小さい細板を削って製作している。身の形態から3種類に区分できる。

匙形木器A 身の先端を一直線にするもの。

匙形木器B 身の先端を半円形にするもの。

匙形木器C 身の先端が半円形を呈するが身の幅が狭く長細いもの。

呪符

井戸内堆積層から出土している。細長い薄板の先端を尖らせ、末端を直線状に切る。先端部ちかくの向側面には、左右対称の位置に三角形に切り取りを加える。表面の文字は、判読できない。裏面への記載はない。

もい鏹

木材片を利用しておもしにしたもの。材の一方所に孔をあけて紐を通すものと、材の中央を細くして紐を結ぶものがある。後者は、むしろ縫みなどに用いられる。

漆器

木材をくっておよその形を整え、ろくろによって整形している。縱木どりと横木どりの両方がみられるがいずれも木芯をさけている。大半が黒漆である。漆は、直接木地にかけるものと布をあててからかけるもののがみられる。

下駄

台と刃を一本からつくる連脚下駄である。下駄の平面形は、隅丸方形を呈する。鼻緒孔の位置は、前壺を中心からやや左寄りに片寄らせ、後壺を後刃の前に開けたものである。刃のつく方は、台と同じ幅で、縦断面が台形をなす。

人形

棒状の材の一端に人の頭部を粗く彫刻したもの。

用途不明木製品

井戸をはじめとする各遺構内からは、用途のはっきりしていない木製品も多数ある。類例の増加をまって今後再検討する必要がある。

2.2 奈良・平安時代の遺物

2.2.1 土器

包含層から出土しているが、他の時期の資料に比べるとその出土量は、極めて少ない。上器には、須恵器・土師器・黒色土器・灰釉陶器・綠釉陶器などがある。須恵器のなかには、墨書きされたものもある。以下では、それぞれにわけて記すことにする。

須恵器

杯・蓋・皿・鉢・高杯・壺・平瓶・水瓶・横瓶・壺などの器形が認められる。これらのうち、最も出土量の多いのは、供膳用の杯である。

杯

杯には、口縁部および高台の有無によって3種類に分類できる。

杯A 平坦な底部と斜め上にまっすぐのびる口縁部からなり、口縁端部を丸くおさめる。

杯B 杯Aに高台をついた形態を備え、蓋と一組になる。高台端部には、内傾・水平・外傾の3種がある。

杯C 平底と斜め上にひらく口縁部からなる。口縁端部は、内側に巻き込む。

蓋

3形態のものがみられる。

蓋A たいらな頂部と屈曲する縁部からなるもの。杯Bと組合せ。

蓋B 頂部が丸く笠形を呈し、縁部が屈曲せず、彎曲気味に仕上げるもの。杯Bと組合せ。

蓋C 頂部から垂直におれ、縁部がやや丸みをもつもの。縁部内端は、下方に突出し外側に段をつくる。壺Aと組合せ。

鉢

鉢は、形態の特徴から4種類に分けることができる。.

鉢A 内弯してたつ口縁部と尖底ないし丸みを帯びた尖底からなる。口縁端部が丸くおさまるものと平坦に面どりするものがある。

鉢B 外反する短い口縁部と上位で肩の張る体部からなる。高台をつけるものとつけないものがある。

鉢C 平底で、長い口縁部がまっすぐ上方にひらくバケツ状のもの。

鉢D 円盤状を呈す底部と斜め上にひらく口縁部からなる。口縁部の一部を外方にひねり出し片口としたものもある。

高杯

ラッパ状にひらく脚部と外反する口縁部をもつ平坦な杯部からなる。

壺

壺には、形態の特徴から8種に分けることができる。

壺A 肩の張ったイチジク形の器体に直立する短い口縁部と高台を貼り付ける。

壺B 平底で斜め上に立ち上がる体部と、みじかく直立する口縁部からなる。肩と体部の境は、純い稜となり、底部に高台を付ける例もある。

壺C 肩部に稜をもつ胴長の体部に、直立する口縁部を付けた平底の器。高台をもつもの。

壺D 直立する短い口縁部をもつ扁平な体部に高台を貼りつけたもの。

壺E 内彎気味に斜め上にひらく肩部と、狭い肩部に外傾する短い口縁部を付けた広口のものもある。

壺F 縱長の胴部に太くて長い口頭部をのせた形態のもので、ロクロ成形で作られる。

壺G 山の狭い肩に稜をもつ扁平な体部に、直立する口頭部と大きく外反する広口の口縁部からなる小型の器。底部には、低い高台を付ける。

壺H 細長い口頭部と肩が張り稜を呈する体部からなる長頸壺。

平瓶

平底で扁平な体部の背面に広口の口頭部と逆U字形の把手を付ける。高台を貼りつけるものと付かないものがある。

水瓶

銅製品を模倣したもので、卵形の器体に細長い口頭部をのせたもの。頭部および体部に沈線を施す。

横瓶

横に長い俵形の体部上面中央に外反する口縁部を付けたもの。

壺

口縁部および体部の形態によって3種類に細分できる。

壺A 卵形の体部に外反する口縁部を付けたもので、口縁部は肥厚し、外傾する面をなす。

壺B 卵形の体部に内脣気味の口縁部を付けたもので、口縁端部は丸くおさまるもの、内傾するものがある。肩部に耳を付けた例もある。

壺C 肩の張った広口短頸の器。肩幅は器高をしのぐものが多く、高台を貼りつけるものと付けないものがある。

円面鏡

研面と脚部の境界部分の小破片である。脚部には、方形の透し穴を施す。また、断面台形を呈する凸帯を脚部に縱方向に貼りつける。やや小型の製品である。

墨書き上器

第16次調査では、3点出土している。いずれも須恵器の器体外面に楷書で書かれている。

蓋Aのつまみの上向に「五月」と記されたもの。

杯Aの底部外面に「□□」と二字書きされたもの。

杯Bの底部外面に「長J」と記されたもの。

土師器

上飾器には、杯・蓋・椀・鉢・高杯・壺・壺・鍋・羽釜・かまとなどの器形が出土している。これらのうち、供膳用のものでは、杯・皿の出土量が多い。また、煮沸用では、羽釜の出土がめだつ。

杯

高台の有無によって分類できる。

杯A 広く平な底部と斜め上方にひらく口縁部からなる。口縁部の形態には、下半が内傾し上半がわずかに外傾し口縁端部が内側に丸く肥厚するものと全体が内傾し、口縁端部の肥厚の小さいものがある。

杯B 外傾する口縁部をもつ平底の器で、低い高台が付く。口縁部と底部の境は、丸みをおびる。

蓋

ボタン状のつまみが付く平坦な頂部となだらかに彎曲する縁部からなる。杯Bおよび皿Bと組合せになる。

椀

椀A 丸底に近い小さな平底と彎する弧を描いて、斜め上に大きくひらく口縁部からなる。

椀B 丸底に近い平底から屈曲しながら外反し、口縁部の上半が垂直に立ち上がり、端部ちかくで小さく外反する。

皿

杯と同様に高台の有無によって分類できる。

皿A 広く平な底部と斜め上にひらく短い口縁部からなる。口縁部の形態には、杯と同様に2種類ある。

皿B 皿Aに高台を付けたもので、蓋と対になる。口縁部の形態には、皿Aと同様に2形態みられる。

鉢

形態によって4種に分けることができる。

鉢A 丸底ないし尖底に近い底部から外縁気味にひらく口縁部が端部近くで内傾するものでいわゆる鉢形である。

鉢B 丸底に近い底部と外傾ないし直立する口縁部からなる。口縁端部が内側に軽く巻き込むものと内傾するものがある。

鉢C 口縁部が内彎する半球形の形態で口縁部の一部を外に折り曲げて片口にする。

鉢D 底部は平底に近い丸底で、口縁部との境は不明瞭で外傾し、口縁部上端がやや外傾する。

高杯

ラッパ状にひらく裾部と、ヘラで多面体に面どりした脚部に大きく外方にひらく浅い杯部を付けるものである。脚部と杯部の接合法には、2手法みられる。長脚化したもので面数の少ないものが多い。

壺

壺には、形態の特徴によって3種類に細分できる。

壺A 高台を付けた平底と肩の張ったイチジク形の胴部と直立する短い口縁部からなる。肩部に上方に強く折り曲げた三角形の把手を貼りつける。

壺B 平底に近い丸底と球形に近い胴部と外反する短い口縁部からなる広口の器。

壺C 蓋受けのような短く内側に屈曲する口縁部と低い高台を付けた広口の壺。

壳

壺A 半球に近い胴部と強く外反する口縁部からなるもの。把手はない。

壺B 壺Aとほぼ同形態で、対する二方の肩に把手を付けたもの。

壺C 頭部でやすほまる長手丸底の器体に斜め上にひらく口縁部を付ける。

鍋

鍋A 半球形の体部に外傾する口縁部の付くもの。把手はない。

鍋B 鍋Aの体部の両側に把手を貼りつけたもの。

かまど

曲げ庇系のものと付け庇系のものの2種類がある。

曲げ庇系壺 すべて生駒西麓の胎土の特徴をもつ。笠穴部分に同心円状の当て具痕を留める。

付け庇系壺 すべて他地域産のものである。

黒色土器

器表面に炭素を吸着させ、漆黒色化させたので、黒色化の範囲が土器の内面に限定している「黒色土器A」のみが出土している。供膳形態の杯A・杯Bがあり、煮沸形態のものはない。

杯A 平らな底部と内縁気味にひらく口縁部からなる。口縁端部は、丸く仕上げる。外面の調整法には、全く調整を施さないもの、底部外面のみをヘラケズリ調整するもの、口縁部の上以外の外面全体をヘラケズリ調整するものがある。いずれも外面にヘラミガキを加え、さらに内面に暗文を施すものもある。

杯B 杯Aに高台を貼り付けるもの。高台の断面形は、三角形を呈する。調整法・暗文の特徴は、杯Aと同一。少数ながら生駒西麓の胎土のものもある。

縁釉陶器

出土している縁釉陶器の胎土は、すべて灰白色ないし黄灰色を呈する軟質のものである。器形としては、杯Bが認められる。

杯B 内彎する口縁部に平らな底部がつく。底部には、高台を貼り付ける。口縁端部は、顯著に外

反する。

灰釉陶器

皿B 扁平な体部に低い高台を貼り付ける。口縁端部は、強く外反する。高台は、すべて付け高台で外端部を面どり風になでて断面三角形を呈する。釉薬を掛ける範囲は、内面全体におよぶ。

2.3 古墳時代後期の出土遺物

古墳時代の遺物は谷内に堆積した灰色粘土層と、水利施設ならびにこの遺構を覆う包含層から須恵器・土師器・株式系土器・製塙土器などの土器類、木製品、金属製品が出土している。前者は、出土遺物から考えて古墳時代後期を中心とするのに対して後者は、古墳時代中期末から後期初等頃のものが出土している。以下では、これを分けて記述することにする。

灰色粘土層からは、須恵器・土師器・土製品が出土している。これらの土器類の出土量は、少量にとどまる。

須恵器

・蓋・壺・甕・はそう・提瓶などの器形が出土している。小破片化したものが多く図化できるものは、少ない。

杯 平底から尖り気味の底部に内傾する低いたちあがりがつく。口縁端部は、尖り気味に仕上げている。体部のヘラケズリの範囲はせまく、粗雑である。

蓋 扁平な天井部と口縁部を区画する稜は、鋭さを欠く。口縁端部は、丸くおさめる。

はそう 球形の体部に長大化した口頭部がつく。口縁端部は、内傾する面を呈する。文様は、省略され認められない。

甕

口縁端部の形態によって細分できる。

甕A 口縁端部を丸くおさめるもの。

甕B 口縁端部に外傾する面を構成するもの。

甕C 口縁端面が凹面をなすもの。

土師器

出土している土師器の器形には、杯・高杯・壺・移動式甕などがある。供膳用の土器類は、いずれも赤褐色を呈し精良な胎土で黒斑をもたない。

杯

安定した丸底の底部に口縁部がつく。内面には、暗文を施す。口縁部の特徴によって分類できる。

杯A 口縁部は内側気味にたちあがり、端部内面に段を構成する。

杯B 口縁部は外反し、端部を尖り気味におさめる。

土製品

上裂支脚が1点出土している。柱状の体部から緩やかにひらく極部につづく。胎土は、生駒西麓の特徴をもつ。二次焼成痕は、認められない。

2.4 古墳時代中期末から後期初頭の遺物

2.4.1 土器類

須恵器

杯・蓋・無蓋高杯・壺・甕・カップ形土器などの器形がある。土師器にくらべ出土量は少ない。

蓋

蓋A 杯と組み合わせになり、天井部につまみをもたないもの。

蓋B 有蓋高杯と組み合わせになり、天井部中央につまみをもつもの。

杯

たちあがりは内傾する。口縁端部は、水平な面をなすものや丸くおさめるものがある。

無蓋高杯 杯部は、中央に稜線で区分した文様帶をもつ。口縁部は外反してたちあがり、先端でやや内彎する。口縁端部は丸くおさめる。脚部には、長方形の透かしを3方向から穿つ。

壺

口縁部は外反し、端部に面をもつものや内彎気味にたちあがり、端部を丸くおさめるものがみられる。口縁部は、いずれも断面三角形の突帯によって区画され、突帯間に櫛がき波状文を施すものもある。

壺

口縁部は朝顔形に外反する。口縁端部は、やや外傾する面をもつものや凹面をなすものがある。口縁端部直下には、断面三角形の凸帯を巡らせる。また、口頸部には、突帯や櫛がき波状文を施すものもある。

土師器

供膳用の杯・高杯、貯蔵用の壺、煮沸用の壺・瓶・羽釜などがみられる。上師器の胎土には、生駒西麓のもののほか他地域のものも認められる。他地域のものは、生駒西麓のものと同様にすべての器形にみられる。特に供膳用の杯・高杯では、他地域の精良な胎土の製品が生駒西麓のものよりも多く出土している。

杯

杯A 口縁部は短く外反し、端部を丸くおさめる。体部は張りをもたず半球形を呈する。

杯B 口縁部が内彎するもので端部に内側に傾斜する面をもつものと丸くおさめるものがある。体部は半球形を呈し、丸底の底部につづく。

高杯

高杯A 杯部が椀形を呈するもので内彎気味に外上方へひらく。脚部は下方でややひろがる柱状部から緩やかにひらく据部にいたる。脚端部は面をもつ。

高杯B 口縁部は外上方へ直線的に長く延びる。口縁部と杯底部との境界には、明瞭な段を構成する。杯底部には、斜め上方にひろがるものと水平にひらくものがある。

壺

壺A 口縁部は短く外上方にのび、端部を丸くおさめる。体部は球形をなす。

壺B 口縁部は内彎気味に外上方へひらき、端部を丸くおさめる。口縁部と体部との境界には、強い棱をもつ。体部は肩にやや張りをもち扁球形を呈する。

壺C 二重口縁の壺。

壺D 口縁部は外反し、端部に外傾する凹面を構成する。口縁部と体部とを区画する稜は鋭い。体部はほぼ球形を呈する。

壺

壺A 口縁部は内彎気味にたちあがる。端部は内側に大きく肥厚し、内傾する面を構成する体部は球形からやや長胴形を呈し、体部最大径が器高をしのぐ。底部は丸底を呈する。

壺B 口縁部が外傾しないやや内彎し、端部を平坦な面で仕上げる。体部は球形からやや長胴の形態を呈する。口径によってさらに2種に細分できる。

壺C 口縁部が外反するものである。体部は球形から長胴形を呈し、丸底の底部につづく。壺Cは、口縁端部の形態によって4種類に細分できる。

壺D 口縁部はゆるく外反する。口縁端部は外傾する面を構成する。体部は張りをもたず、安定した平底の底部につづく。

甕

口縁端部は、平坦な面をなす。体部は砲弾形を呈する。

羽釜

口縁部は短く外反し、端部を丸くおさめる。鉢は水平方向に長くのび、端部を丸く仕上げる。

韓式系土器

器形としては、煮沸用の壺がみられる。胎土は、生駒西麓のものほか他地域の製品もある。

壺

口縁部は短く外反する。端部は外傾する凹面を呈する。口縁部と体部との境界には、強い稜をもつ。体部は、球形ないしやや長胴の形態である。底部は、丸底を呈する。

製塙土器

口縁部は直立ないしは内彎し、端部を丸くおさめるものや尖り気味におわるものもある。

2.4.2 木製品

斧

柄は、木の幹と枝の股を利用し、枝から握りを、幹から斧台を作り出す。装着状況から袋状鉄斧を取り付けたものであろう。

火きり板

紙い角棒の側面に間隔をおいて切り欠きを加える。

2.4.3 金属製品

金属製品には、鋳造鉄斧・小型素文鏡がある。

鋳造鉄斧

平面形は、ほぼ長方形、縦断面形が長三角形、横断面形が台形を呈する。全長12.8cm、刃部幅3.3cm、袋部幅約4.4cmを測る。

小型素文鏡

直径約2.5cm、厚み約0.1cmを測る。

2.5 弥生時代の遺物

弥生土器は、調査区北半部を東西にのびる埋没開析流路(谷1、谷2)、溝遺構(通称「弥生溝」、谷2の堆積層を覆う「緑灰色粘土層」)から出土した。谷1の弥生土器包含層は、植物遺体に富む砂礫層と砂質粘土質シルト層が互層をなし、1つの土器片は複数の堆積層にまたがって検出されることが多かったので、分層は行わず、この累重を任意の基準で上部(U)、中部(M)、下部(L)に分けて遺物を採集した。

溝遺構は本調査区の東に隣接する西ノ庄10次調査区の南西隅で検出された南東-北西方向にのびる遺構の延長部で、谷2の「緑灰色粘土層」の上部に連続していた。出土した土器の種類と特徴は以下のとおり。法量と胎土に含まれる鉱物、砂粒の岩石種は観察表に示した。

2.5.1 谷1下層上部の弥生土器

壺

第IV様式

広口蓋 177は漏斗状に聞く口頸部と下垂する口縁端部をもつもの。口縁端部を僅かに下垂させ凹線文を施す。胴部外面から頸部にかけては縦方向のハケメを施した後、ナデでしあげるがとくに頸部上半の外面、口頸部内面には強いヨコナデを施す。178は頸-胴部の境目に櫛描直線文を施す。

細頸蓋 175は外傾する頸部と内彎する口縁部をもつ。口頸部外面に施文する。細頸蓋のなかでも太短いタイプのもので頸部上半に4条の簾状文、下半のくびれ部分に凹線文を施す。内面はハケメ調整の後ナデで仕上げる。

受口状口縁蓋 176は外反する頸部から緩やかに直立して口縁部をなす。口縁部上下端に弱い凹線文を施す。内外面ともにハケメ調整の後ナデ調整。他地城産の胎土。

無頸蓋 182は鉢にも見える。平たく広がる胴部下半と弱く内傾した上半に肥厚した短い口縁部をもち、口縁上端部は面をとる。胴部上半は簾状文を施し、刻み日棒状浮文を貼り付ける。口縁部直下に穿孔を穿つ。

第V様式

長頸蓋 カブラ形の胴部と緩く外傾する円筒形の口頸部をもつ。胴部と口頸部の高さはほとんど等しい(179、180)。179は口頸部の直径がその長さに比べて著しく小さい。また口縁部外面に擬凹線を1条施す。

鉢

第IV様式

鉢 183は平たく広がる胴部下半と直立した上半部に帯状に肥厚した口縁部がつく。上述の無頸蓋に比べて胴部上半の立ち上がりは短い。外面に簾状文と3条一組の刻み日棒状浮文がつく。

台付鉢(191、193、194) 脚台部の破片3点、191は低い円錐台形。裾部端部に外傾した面をもち、その直上に刺突文を巡らす。中程に穿孔があり、体部の直下には凹線文を巡らす。193は円錐形で大きく開いた裾に櫛描刻文を施す。194は低く緩やかに外反する短い脚台部。裾には櫛描利点文と穿孔を施す。

第V様式

鉢 184は椀状に膨らむ胴部に受口状の口縁部をつけたもの。内外面ともヘラミガキで仕上げる。

有孔鉢 185は逆円錐形の器体の底部に焼成前の穿孔をもつ。外面にタタキ目、内面にハケ目を残す。

高杯

第IV様式

高杯脚部(-192) 傘形の脚部から緩やかに立ち上がる脚柱部を接つ。裾端部は拡張して面をもち凹線文を施す。

第V様式

高杯A: 皿状の受け部に外反して短かく立つ口縁部を付けるもの(186～190、195、196)。186～190の脚部は無文。195、196は擬凹線文を施す。

高杯B: 椭状の受部をのせるもの(197、198)。197の脚部は無文。198は上半に擬凹線、下半は鋸歯文で埋め、裾部に刺突文を巡らす。

蓋

第V様式: 平たい傘形の頂部に窪みをもつまみがつく(199、200)。これらはは堺用か。

器台

第V様式: 円筒形の胴部から大きく外反した受部、脚部を上下につける(201～204)。受部の端部面は拡張して文様を施す。223は波状文と円形浮文の組み合せ。204は擬凹線文の上下に綾形文状に

刺突文を巡らせ、竹管文のある円形浮文と棒状浮文を加える。第IV様式か。

壺

第IV様式

外面はハケメ、ヘラケズリ、ヘラミガキによる調整。胴部の最大腹径は高位にある(207~209)。口縁部は受口状で、肩曲部に刺突文を施すもの(208)、短かく外傾し、端部に小さく面をとるもの(206)、水平に近く外反するもの(209)などがある。205は壺のミニチュアのようにも見える。

第V様式

外面はタキメをのこす(215~224)。口縁部は受口状で、肩曲部に刺突文を施すもの、短かく外傾し、端部に小さく面をとるものがあり、後者には擬凹線様のヨコナデを施すものもある。

ミニチュア土器

壺 第V様式長頸壺のミニチュア上器(212)。

鉢 210、211はともに手づくねの整形で、不規則な粘土の接合痕がみとめられる。214は細い粘土紐の接合痕がみとめられ、第V様式の鉢に類似する。

甕 第V様式壺のミニチュア上器(213)。

2.5.2 谷1下層中部の弥生土器

壺

第V様式

広口壺 漏斗状に聞く口頭部と下垂する口縁端部をもつもの。225、226ともに口縁端部に擬凹線文を施す。外面は全体にハケメ調整の後ヘラミガキで仕上げる。口頭部内面も同様。胴部内面はハケメ調整。227は円筒形に立ち上がる口頭部から強く外反し、水平に近い口縁部をもつもの。口縁端部は面をとる。

長頸蓋 カブラ形の胴部に緩く外傾する口頭部をもつ。胴部と口頭部の高さはほとんど等しい(229~232)。外面は全体にハケメ調整の後ヘラミガキで仕上げる。内面口頭部は横方向のハケメ調整の後ヘラミガキ、胴部はハケメのうえをナデで仕上げる。

鉢

第IV様式

233は椀状に膨らんで立ち上がり、口縁上端部に面をとる。口縁直下に2条の凹線文を巡らす。234はハケメとナデ、口縁部外面に強いヨコナデを施す。

高杯

第IV様式

241は溝部を拡張して凹線文を施した傘形の楕部から外反ぎみに立ちあがる柱部につながる。楕部には鋸齒文、柱部には擬凹線文を施す。242は細長い円錐形の脚柱部の上に椀状の受部がつく。口縁端部に刻み目を巡らす。243、244は椀状の受部をのせるもの。

第V様式

皿状の受け部に外反して短かく立つ口縁部を付ける(235~240)。

器台

第V様式：円筒形の胴部から大きく外反した受部、脚部を上下につける。(245~254)

245、246、251は受部や脚部の端部をあまり拡張しないもので、擬凹線文を巡らすものもある。いっぽう、247~250、252、253は受部の端部を下垂して拡張し、擬凹線文、円形浮文、棒状浮文、刻み目文を施し、円筒形の柱部にも擬凹線文を巡らすものがある。

甕

第IV～V様式

258、263、265、266は第IV様式期、他は第V様式期の上器と思われる。255～266は外面はハケメ、ヘラケズリ、ヘラミガキによる調整。胴部の最大腹径は高位置にある。口縁部は受口状で、屈曲部に刺突文を施すもの、短かく外傾し、端部に小さく面をとるもの、水平に近く外反するものなどがある。

第V様式

外面はタタキメをのこす(267～269)。

口縁部は受口状で、屈曲部に刺突文を施すもの、短かく外傾し、端部に小さく面をとるものがあり、後者には擬凹線様のヨコナデを施すものもある。

蓋

第IV～V様式

270は周辺部が水平に広がる傘形の頂部に窪みをもつたみがつく。外面はヘラケズリとヘラミガキ調整。

他の土製品

杓子形土製品 273。喫煙パイプのような形態。中実の柄がつく。身は丸く包みこむように口縁部をすばめる。

有孔筒形土製品 272。円筒形の一端は閉じており穿孔がある。他端は開いており内面に沈線状の溝を巡らす。側面にも1か所穿孔がある。

台付鉢のミニチュア上器 274。椀形の胴部に円錐台形の台がつく。手すくねによる整形。細い粘土紐の接合痕がみとめられる。

漏斗形の土器 271。図・写真は逆か。上下不明。全体にハケメの上にナデ。

2.5.3 谷1下層下部の弥生土器

壺

第IV様式

広口壺 漏斗状に聞く口頭部と下垂する口縁端部をもつもの。275は口縁端部に波状文を施し、頭部外面には櫛指直線文を2条巡らせる。276の口縁端部は無文。蓋用の穿孔をもつ。内外面ともにハケ調整。口縁部は強いヨコナデを施す。278は口縁端部に擬凹線文と縦方向の条線を施す。頭部外面に擬凹線を巡らす。

受口状口縁壺 277は大きく外反する漏斗状の頭部に上下に拡張した口縁部がつく。拡張した口縁部外面に退化した肩形文を2列に巡らせ、頭部は櫛指直線文を巡らせる。

無頸壺 283は平たく広がる胴部下半と内傾した上半に肥厚した短い口縁部をもち、口縁上端部は面をとる。胴部上半は簾状文を施す。口縁部直下に紐孔を穿つ。287は台付か。

第V様式

広口壺 漏斗状に聞く口頭部と下垂する口縁端部をもつもの。口縁端部に文様を施す。281、282ともに擬凹線に円形浮文を口縁端部に施す。後者の円形浮文は竹管文を加える。内外面ともに頭部はハケ調整の後ヘラミガキで仕上げる。

鉢形土器

第IV様式

284～289。皿状に聞く胴部下半、短かく直立する上半の上端を面取りして口縁部とする。外面は簾

状文を施す。288はいわゆる台状上製品であるが、内外面ともにヘラミガキで仕上げ、容器としての用途が考えられる。289は平たく広がる胴部下半と直立した上部に帯状に肥厚した口縁部がつく。外面は全体に簾状文を施し、口縁部には刺突文を加える。

3 まとめ

西ノ辻遺跡第16次発掘調査で出土した遺物には、縄文時代から室町時代に土器類・瓦・上製品・木製品・石製品・金属製品のほか自然遺物がある。これらのうち、もっとも出土量の多いものは、土器類である。以下では、時代ごとに分けて出土遺物の特徴についてまとめてみたい。

鎌倉・室町時代

鎌倉・室町時代の上器類には、土師器・須恵器・瓦器・陶器・輸入磁器など多種類の焼き物がある。さらに、漆器や木製品などを加えると、豊富な容器類が存在していたことになる。

瓦器碗についてみると、13世紀後半から碗Aが増加し14世紀には、そのほとんどが碗Aになる。このような傾向は、神並遺跡をはじめとする西ノ辻遺跡周辺の他の遺跡でも認められる。從来から言われている和泉型や大和型がそのまま生産地をしめすとすれば13世紀後半をさかいで瓦器碗の搬入先が変わり、以後瓦器生産の終了時点までこの傾向が継続する。このような動向は、土師器釜についても看取できる。この背景には、南北朝期の動乱があったことは容易に推定できる。

奈良・平安時代

奈良・平安時代の出土遺物には、土師器・須恵器・黒色土器・綠釉陶器・灰釉陶器などがある。土師器のうち煮沸用の羽釜・竈は、所謂生駒西鏡の胎土であるが、他の供膳用の土器や煮沸用の土器は、他地域の製品である。生駒西鏡の羽釜・竈は、同時期に多量に余剰生産され、都城をはじめ畿内各地に搬出していることはすでに指摘した。『延喜式』の貢献物資の中には、記載されていないが羽釜と竈が貢献や市などをとおして流通していたことが推定できる。

杯・皿の製作手法はa-b手法のものはほとんどなく、c-c手法のものが多い。また、法量による器形の分化現象から脱却し、法量の統一化しつつある段階のものと捕えることができる。このような動向は、平城京・長岡京・平安京などの都城における上器・杯類の変遷と基本的には同一のものといえる。一方、器種構成については、出土量が少ないと比較・検討できない。

須恵器は、近年の生駒氏の発掘調査によって生駒山の東側に多数の窯跡の存在することが明らかになっている。これらの窯跡からの製品が本遺跡にも供給されていたことも十分考えられる。須恵器の円筒面鏡と墨青土器が同時に出土していることは、同期の本遺跡の性格を考えるうえで貴重なものである。ここでは、「神並莊」や法通寺との関連を想定できる。

古墳時代

古墳時代の遺物は、水利開拓施設内をはじめ水利施設の築造ベース、および水利施設を覆う包含層から多量に出土している。これらの出土遺物は、大きく後者の古墳時代後期のものと前者の古墳時代中期末から後期初頭頃のものにわけることができる。

古墳時代後期の資料の出土量は微量で、特に土師器の資料に乏しい。この時期の土師器編年については、ほとんど研究されていないのが現状である。当地域で早急に良好な資料が確認されることを期待したい。

古墳時代中期末から後期初頭の出土遺物には、土師器・須恵器(初期須恵器)・韓式系土器・製塩土器・鉄造鉄斧・小型鏡などがある。土師器のうち、供膳用の杯・高杯は、他地域の精良な胎土のものがほとんど

を占める。これに対して、煮沸用の土器は在地産のものと他地域産のものが存在する。杯・高杯・Aの製作手法や法量には、強い規格性が認められ、土師器の生産と流通の一侧面をみることができる。兜は、口縁端部の形態に布留式の伝統をとどめるA・Bと韓式系土器の系譜につらなるC・Dがある。両者には、体部外面調整や法量などの点で共通性も認められ、相互に影響を与えるながら存在している。このことは、土師器製作と韓式系土器製作の管理形態や居住形態などの社会的背景をしめすとともに実用面での火所との関連についても考察しなければならない。このほか他遺跡の諸例と同様に初期須恵器や韓式系土器が少量出土している。韓式系土器には、いわゆる生駒西麓の胎土ではないものが含まれている。これは、日本の他地域で製作されたものか半島から直接持ち込まれたものかは速断できないが、他地域から生駒西麓産の韓式系土器が出土していないことと対照的である。渡来者の定住過程を推測するうえで重要なことと考えられる。

弥生時代

弥生時代の遺物は埋没開拓流路の充填堆積層から多量に出土した。そのほとんどは土器類で、石器はきわめて小量であった。本資料は開拓流路の南側からの投棄によって集積したもので、集落の継続期間に製作使用された土器が混在する。土器型式から考えられる相対年代は、弥生時代中期末から後期初頭で、畿内第IV様式末期から第V様式初期の土器様式(型式)に相当する。また、從米西ノ辻N式、I式とよばれてきた型式を含んでいる。中期末の形態要素を継承する第V様式土器群は資料中に数多く含まれる。第IV様式の上器群には、生駒西麓産ではない胎土の凹線文系土器を中心に、第III様式の備描文の継続と凹線文の併存を示す資料群が見いだされた。中期から後期への上器の変遷は整形・調整技法に裏付けられた器形変化の先行性が議論の基礎をなすと思われる。層序学的な認識をふまえ、土器資料の歴史的脈絡を検討することも今後の課題である。

観察表凡例

1. 造物の名称は、種類と器種で表示する。
2. 法量は、口径×器高で示す。(底)と表示したものは、底径を示す。
3. 色調は、「マンセル表色系」を採用し、「標準土色帖」を使用した。Nは灰色、YRは褐色系統である。
表中には明度/彩度の順で表示した。個々の色調の名称は下図のとおりである。

5YR

灰白		淡橙		
8/1	8/1	8/3	8/4	
明園灰		に bei	程	概
7/1	7/2	7/3	7/4	7/6 7/8
鵝灰	灰褐	6/3	6/4	6/6 6/8
6/1	6/2			
5/1	5/2	に bei 小鵝	明赤褐	
		5/3	5/4	5/6 5/8
4/1	4/2	4/3	4/4	赤褐色
				4/6 4/8
黒褐		暗赤褐		
3/1		3/2	3/3 3/4	3/6
2/1	2/2		施暗赤褐色	
			2/3 2/4	
藍色				
1.7/1				

7.5YR

灰白		浅黄褐			黄橙
8/1	8/2	8/3	8/4	8/6	8/8
明園灰		に bei	程	概	
7/1	7/2	7/3	7/4	7/6	7/8
鵝灰	灰褐	6/3		6/4 6/6 6/8	
6/1	6/2				
5/1	5/2	5/3	5/4	5/6 5/8	明褐
4/1	4/2	4/3	4/4	4/6	褐
黒褐		暗褐			
3/1	3/2	3/3	3/4		
黒		施暗褐			
2/1	2/2	2/3			
1.7/1					

10YR

灰白		浅黃橙		黃橙
8/1	8/2	8/3	8/4	8/6 8/8
		に bei 黄橙	明黃橙	
7/1		7/2	7/3 7/4	7/6
鵝灰	灰黃褐	6/3	6/4	6/8
6/1	6/2			
5/1	5/2	に bei 黃橙	黃橙	
		5/3	5/4	5/6 5/8
4/1	4/2	4/3	4/4	4/6
品褐		暗褐		
3/1	3/2	3/3	3/4	
黒		施暗褐		
2/1	2/2	2/3		
1.7/1				

N 8 ~ 7 灰白

6 ~ 4 灰

3 暗灰

2 以下 黑

4. 胎土中の砂粒は、0.1 前後以上の石英 (Q)、長石(F)雲母(M)角閃石(A)について観察した。各鉱物の出現頻度は VF= かなり多い、F= 多い、R= 少ない、VR= ほとんどない、で表示した。

遺物観察表(1)

報告No.	種類	器種	法量	色調	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
001	土師器	皿	7.6	1.2	2.5YR7/3	X					X				
002	土師器	皿	10.7	2.4	2.5YR7/3	X					X				
003	瓦器	椀	10.2	2.75	N 3/	X		X			X				
004	瓦器	釜	28.6		N 2/	X					X				
005	土師器	釜	29.4		2.5YR8/3	X					X				
006	瓦器	鉢	33.6		N 3/	X			X		X				
007	瓦器	釜	30.8		10YR6/2	X					X	X			
008	瓦器	椀	13.8	4.0	N 4/1	X		X			X		X		
009	瓦器	椀	12.5	4.0	N 6/	X		X			X		X		
010	土師器	皿	8.3	1.5	2.5YR8/4	X					X				
011	須恵器	甕	16.4		7.5 Y 6/1	X			X		X	X			
012	瓦器	釜	20.6		7.5 Y 5/1	X					X				
013	陶器	壺	20.2		2.5YR3/1	X					X				
014	土師器	皿	7.4	1.8	2.5YR7/3	X					X				
015	瓦器	鉢	3.0		N 4/	X					X				
016	須恵器	甕	5.3		2.5 Y 6/1	X					X				
017	土師器	皿	7.8	1.4	5 Y 7/1	X					X				
018	瓦器	皿	10.6	2.1	N 5/	X					X				
019	瓦器	釜	18.2	5.5	N 6/	X					X				
020	陶器	甕	20.0		2.5YR5/3	X					X				
021	陶器	鉢	32.2			X					X				
022	瓦器	桶り鉢	34.4		N 3/	X				X	X				
023	瓦器	釜	23.4		N 4/	X				X	X	X			
024	土師器	釜	29.7		2.5YR6/6	X					X				
025	瓦器	釜	24.8		SYR8/4	X					X	X			
026	瓦器	釜	21.8		2.5YR5/1	X			X		X				
027	陶器	桶り鉢	26.4		2.5YR4/1	X					X				
028	土師器	皿	7.8	1.9	2.5YR6/4	X					X				
029	瓦器	椀	14.0	3.1	N 4/	X			X		X				
030	土師器	皿	7.6	1.4	2.5YR7/4	X					X				
031	土師器	皿	8.4	1.5	10YR7/3	X					X				
032	土師器	皿	8.4	2.2	2.5 Y 7/3	X					X				
033	瓦器	椀	8.2	3.6	SYR8/3	X					X				
034	瓦器	桶り鉢			N 3/	X					X				
035	青磁	椀	15.0		7.5 Y 7/2	X					X				
036	青磁	椀			5 Y 6/3	X				X	X				
037	瓦器	釜	27.4		5 Y 4/1	X				X	X				
038	須恵器	桶り鉢				X					X				
039	青磁	椀			10GY7/1	X			X		X				
040	土師器	釜	30.0		2.5YR8/3	X					X				
041	土師器	釜	26.6		N 4/	X					X				
042	瓦器	釜	10.6		SYR7/8	X					X	X			
043	瓦器	椀	10.8	3.0	N 3/	X					X		X		
044	瓦器	椀	10.3	2.95	2.5 Y 5/1	X					X		X		
045	土師器	皿	8.3	1.3	10YR8/3	X					X				
046	土師器	皿	11.1	2.2	5 Y 8/2	X					X				
047	瓦器	椀	10.8	2.9	N 3/	X					X	X			
048	瓦器	椀	11.2	2.8	N 3/	X				X	X		X		
049	磁器	九皿	9.4	2.7	2.5GY8/	X					X				
050	瓦器	椀	10.4	2.5	2.5 Y 7/1	X					X		X		
051	瓦器	椀	10.5	2.85	2.5YR2/1	X					X		X		
052	瓦器	椀	9.7	3.3	10 Y 3/1	X					X		X		
053	土師器	皿	8.1	1.65	5 Y 7/2	X					X				
054	土師器	皿	7.3	1.4	2.5 Y 7/3	X					X				
055	瓦器	椀	10.8	2.8	N 5/	X					X				
056	土師器	皿	8.8	1.4	2.5 Y 8/3	X					X				
057	土師器	皿	10.8	1.8	2.5YR7/4	X					X				

遺物觀察表(2)

報告No.	種類	器種	法量	色調	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内タ	内ケ	内ユ
058	瓦器	三足釜			X						X					
059	須恵器	壺	7.9	10YR4/1	X						X					
060	瓦器	釜	19.0	N 4/	X						X					
061	瓦器	火鉢	36.6	N 4/	X	X					X		X			
062	土師器	壺	9.8	1.7	10YR7/1	X					X					
063	瓦器	壺	12.0	3.1	5 Y 4/1	X					X		X			
064	瓦器	鉢	17.8		5 Y 2/2	X					X		X			
065	陶器	壺	19.4		2.5YR4/4	X					X		X			
066	瓦器	壺	10.8	3.2	N 4/	X					X		X			
067	瓦器	壺	10.8	2.7	N 5/	X					X		X			
068	瓦器	皿	8.4	1.8	N 4/	X					X		X			
069	土師器	皿	8.0	1.5	2.5 Y 8/2	X					X		X			
070	土師器	皿	8.2	1.3	10YR7/3	X					X		X			
071	土師器	釜	33.0		10YR5/3	X					X		X			
072	土師器	皿	8.0	1.4	10YR7/2	X					X		X			
073	土師器	壺	10.3	2.4	2.5 Y 8/2	X					X	X				
074	土師器	釜	20.0		2.5 Y 8/2	X					X		X			
075	瓦器	壺	12.2	3.2	N 6/	X					X	X				
076	瓦器	壺	23.8		2.5YR2/1	X					X		X			
077	瓦器	鉢	31.2		N 3/	X	X				X		X		X	
078	須恵器	壺	39.0		10YR6/2	X	X				X		X			
079	瓦器	壺	47.6		N 3/	X					X		X			
080	土師器	皿	8.0	1.2	10YR6/6	X					X		X			
081	土師器	皿	8.0	1.2	5 Y 7/3	X					X		X			
082	瓦器	碗	13.0	3.9	N 3/	X		X			X	X		X		
083	瓦器	碗	13.1	4.0	N 3/	X	X				X	X	X			
084	土師器	皿	11.4	1.9	5 Y 7/2	X					X		X			
085	土師器	皿	12.3	2.4	2.5YR6/6	X					X		X			
086	土師器	皿	8.0	1.3	10YR7/1	X					X		X			
087	土師器	碗	13.6	4.2	N 4/	X		X			X		X		X	
088	瓦器	碗	13.2	3.9	N 3/	X		X			X		X		X	
089	瓦器	碗	13.6	4.6	N 4/	X		X			X		X		X	
090	土師器	刺釜	28.4		2.5YR6/6	X					X		X			
091	瓦器	釜	29.8	24.5	5 Y 4/1	X					X		X		X	
092	瓦器	搗り鉢			7.5YR5/1	X					X		X			
093	須恵器	蓋	15.7	1.9	N 6/	X					X		X			
094	須恵器	蓋	14.8	2.5	7.5YR4/1	X					X		X			
095	須恵器	杯	16.4	3.6	2.5 Y 8/2	X					X		X			
096	須恵器	杯	13.2	3.5	N 7/	X					X		X			
097	須恵器	杯	14.6	5.4	N 6/	X					X		X			
098	須恵器	杯	10.0	3.3	7.5 Y 6/1	X					X		X			
099	須恵器	壺	10.6		N 5/	X					X		X			
100	須恵器	円面鏡			2.5 Y 6/1	X					X		X			
101	須恵器	壺			10YR6/1	X					X		X			
102	須恵器	壺	23.0		N 6/	X		X			X		X			
103	陶器	縁軸流				X					X		X			
104	陶器	縁軸皿	13.3	2.9		X					X		X			
105	陶器	灰軸皿	14.6	2.45		X					X		X			
106	土師器	杯	12.4	2.9	10YR7/3	X					X		X			
107	土師器	杯	13.6		10YR7/6	X	X				X		X			
108	土師器	杯	11.8	3.4	5YR6/6	X					X	X			X	
109	土師器	碗	11.6	3.2	5YR7/4	X	X				X		X			
110	土師器	碗	14.0	3.8	5YR7/6	X					X	X				
111	土師器	皿	14.8	2.6	5YR7/3	X					X		X			
112	土師器	皿				X					X		X		X	
113	土師器	壺	20.0		5YR5/6	X					X	X				
114	土師器	羽釜	28.4		5YR6/4	X					X		X		X	
115	土師器	高杯	5.8	3.6		X					X		X			
116	黒色土器	碗	17.0	5.0		X	X				X		X		X	

遺物観察表(3)

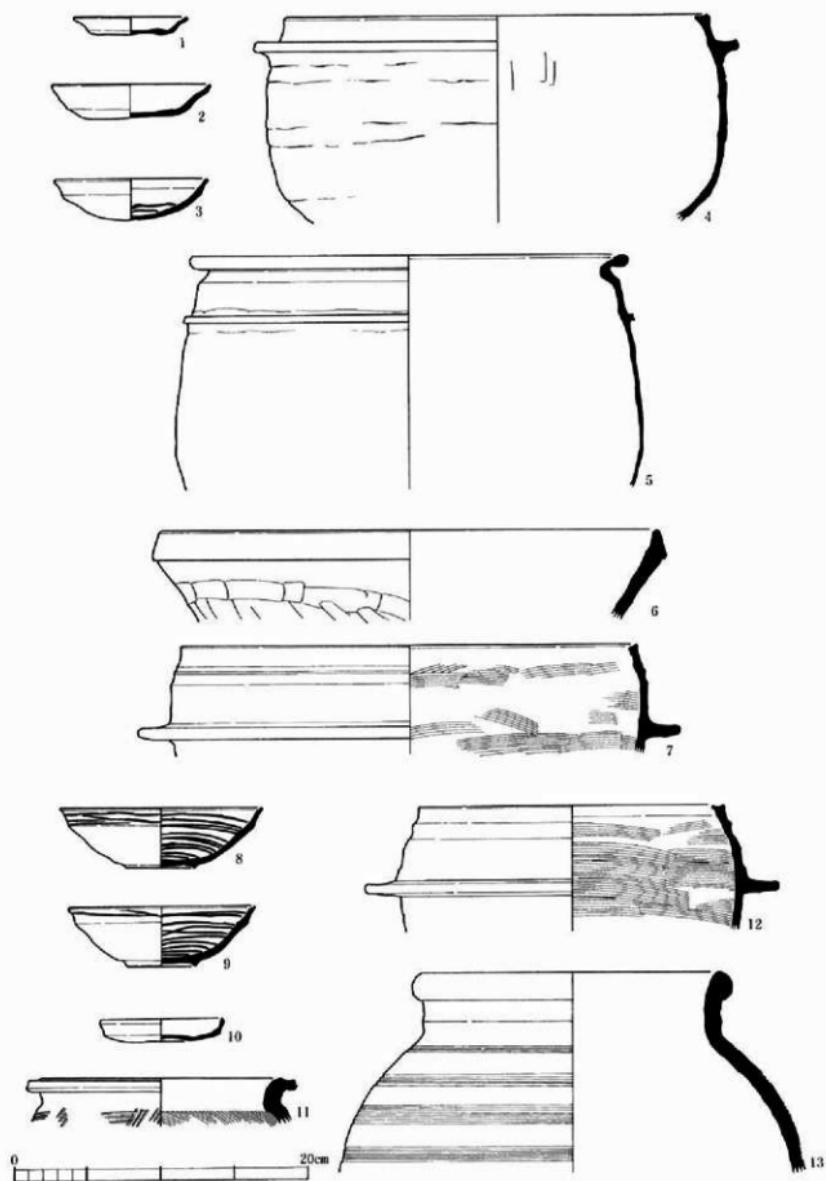
報告No.	種類	器種	法量	色調	外ナ	外ハ	外ミ	外タ	外ケ	外ユ	内ナ	内ハ	内ミ	内ケ	内ユ
117	須恵器	碗	13.6	4.2	N 7/	X			X	X					
118	須恵器	杯	12.0	3.9	N 5/	X			X	X					
119	須恵器	杯	9.6	3.4	N 5/	X			X	X					
120	須恵器	はそう			N 5/	X			X	X					
121	須恵器	盞	14.2		N 6/	X			X		X				
122	須恵器		8.4		N 6/	X					X				
123	須恵器	提瓶			N 5/	X					X				
124	須恵器	盞又は横原	13.8		5 Y 5/1	X					X				
125	須恵器	兜	18.4		N 6/	X			X		X				
126	須恵器	兜	19.6		10BG5/1	X			X		X				
127	須恵器	兜	23.4		N 5/	X					X				
128	須恵器	兜	18.2	31	7.5 Y 7/1	X			X		X				
129	土師器	杯	9.2	2.6	SYR7/4	X					X			X	
130	土師器	杯	10.8	3.4	2.5YR7/6	X					X		X		
131	土師器	高杯	16.0		SYR8/3	X					X		X		
132	土師器	高杯			7.5YR7/4	X					X		X		
133	土師器	盞	8.8	5.4	7.5YR7/4	X						X			
134	須恵器	蓋	14.2	4.3	5 B 5/1	X					X		X		
135	須恵器	蓋	13.8	4.4	7.5 Y 6/1	X					X		X		
136	須恵器	蓋	13.2	3.85	N 6/	X					X		X		
137	須恵器	杯	12.8	3.8	N 7/	X					X		X		
138	須恵器	杯	9.0	2.85	7.5 Y 5/1	X					X		X		
139	須恵器	はそう	14.6		N 5/	X						X		X	
140	土師器	杯	13.4	4.4	SYR6/4	X			X		X		X		
141	土師器	壺	12.0	9.6	2.5YR7/3	X	X					X			
142	土師器	壺	11.4	11.6	7.5v6/6	X	X					X			
143	土師器	支脚			10YR5/3	X						X			
144	土師器	壺	18.6	27.4	10YR7/3	X	X					X			X
145	土師器	壺	18.2	35.7	10YR6/4	X	X					X		X	
146	須恵器	壺	23.2		N 4/	X					X		X		
147	須恵器	壺	24.0			X					X		X		
148	須恵器	壺	23.8		N 5/	X					X		X		
149	須恵器	器台	36.0		5 Y 7/1	X			X		X		X		
150	須恵器	杯	11.6	4.6	N 4/	X			X		X		X		
151	須恵器	高杯			10YR6/3	X						X			
152	須恵器	高杯			N 5/	X						X			
153	土師器	壺	9.8		7.5YR7/4	X	X					X			
154	土師器	壺	9.0	8.0	10YR8/3	X						X			
155	土師器	壺	12.6	15.5	10YR6/4	X	X					X			
156	土師器	壺	12.6	17.9	SYR6/4	X	X					X			
157	土師器	壺	12.4	13.4	7.5YR6/1	X	X					X		X	
158	土師器	壺	14.0		7.5YR4/2	X						X		X	
159	土師器	兜	12.0	13.3	SYR7/4	X						X			X
160	土師器	兜	15.8	21.6	10YR6/4	X	X					X		X	
161	土師器	盞	15.6		7.5YR6/4	X	X					X			
162	土師器	兜	15.2	22.2	7.5YR7/4	X	X					X			X
163	土師器	兜	22.5		10YR6/4	X	X					X		X	
164	土師器	盞	13.4	18.8	2.5 Y 8/3	X	X					X			
165	土師器	兜	14.5	23.0	2.5 Y 7/3	X	X					X		X	
166	土師器	盞	10.4		10YR8/3	X	X					X			X
167	土師器	盞	9.6	15.2	SYR7/4	X			X			X			
168	土師器	盞	10.2	16.2	7.5 Y 7/6	X			X			X			X
169	土師器	高杯	16.0		SYR5/6	X						X			
170	土師器	高杯	13.6		10YR7/4	X	X					X			
171	土師器	高杯	15.2	11.1	7.5YR7/4	X	X					X			
172	土師器	高杯	17.2	11.0	2.5YR5/6	X						X			
173	韓式土器	鉢	21.2	11.6	7.5YR7/4	X			X			X			
174	韓式土器	壺	20.6	32.2	7.5YR5/6	X			X			X			

遺物觀察表(4)

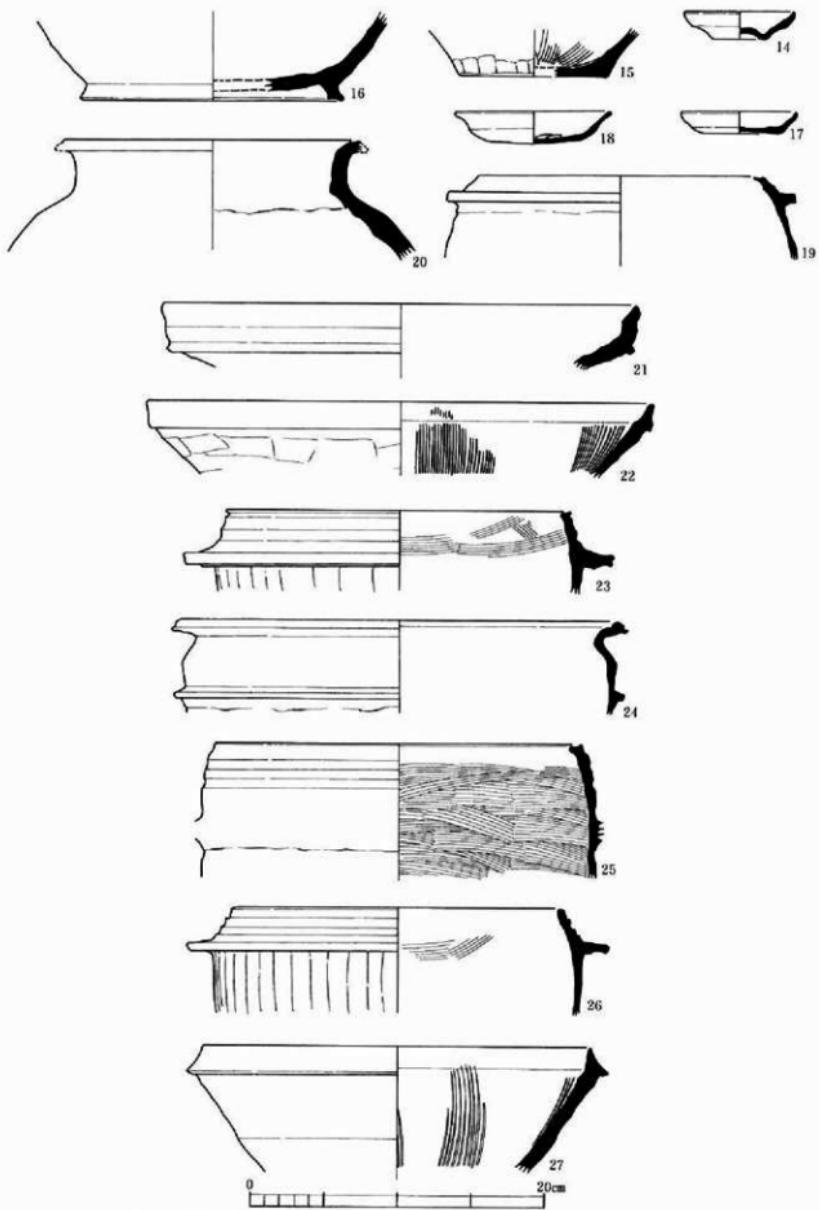
報告番号	器種	法量	色調	石英	長石	雲母	角閃石	その他
175	縹瑠璃	16.0-	10YR6/3	c-vf(F)	vc-vf(VF)	vf(R)	タリキト(VR)	
176	受口状口縁皿	21.6-	2.5YR6/6	v(<VR)	vc-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	タリキト m-vf(R)
177	広口壺	13.8-	2.5YR6/4	v(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	c-vf(VF)	
178	広口壺	15.0-	10YR7/3	e-vf(F)	vc-vf(VF)	m-vf(R)		chert gr.m.(<VR)
179	長頸壺	10.0-	10YR6/2	c-vf(R)	vc-vf(VF)		vc-vf(VF)	
180	長頸壺	12.2-	10YR5/3	c-vf(R)	vc-vf(VF)	vf(<VR)		
181	壺形鼎	(底)17.4	10YR7/3	vf(f-VR)			vc-vf(VF)	タリキト(F)
182	無頸壺(台付鉢)	16.8-	10YR5/3	vf(<VR)	c-vf(F)	v(f-<VR)	vc-vf(VF)	
183	鉢	22.6-	7.5YR6/3		c-vf(VF)		vc-vf(VF)	gabbro gr.
184	鉢	27.87-	7.5YR5/4	v(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
185	鉢	17.0*10.3*4.6	10YR5/3	c-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	vc-vf(VF)	
186	高杯	22.4*15.5-	7.5YR6/3	v(f-VR)	vc-vf(F)	f-vf(F)	vc-vf(VF)	
187	高杯	24.0-	5YR4/4	v(f-VR)	vc-vf(VF)			chert gr.m.(<VR)
188	高杯	-	7.5YR5/3		v(f-R)		vc-vf(VF)	
189	高杯	(底)13.8	7.5YR5/3	c-vf(F)			c-vf(VF)	
190	高杯	(底)14.2	10YR7/3	f-vf(R)	c-vf(VF)	f-vf(A)	vc-vf(VF)	タリキト
191	白付鉢	(底)11.8	10YR6/3	<vf(<VR)	c-vf(VF)	v(f-VR)	vc-vf(VF)	
192	高杯	(底)16.4	5YR6/4	v(f-VR)	m-vf(VF)	v(f-R)	c-vf(VF)	
193	台付鉢	(底)13.2	10YR6/4	v(<VR)	m-V(f-VR)	v(f-<VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
194	台付鉢	(底)13.6	10YR6/4	v(f-R)	vc-vf(VF)			
195	高杯	-	10YR5/3	c-vf(VF)	vf(<VR)	c-vf(VF)	gabbro gr.	
196	高杯	-	2.5Y5/2	vf(<VR)	m-vf(F)			chert gr.vf(VR)
197	高杯	(底)9.0	2.5Y6/3	f-vf(R)	g-vf(VF)	vf(VR)	タリキト(F)	
198	高杯	(底)8.0	5YR6/4	c-vf(F)	vc-vf(F)	f-vf(F)		
199	蓋	-	2.5YR5/6	v(f-VR)	c-vf(R)		vc-m(VF)	
200	蓋	17.4*5.5	2.5YR5/6	v(f-VR)	vc-vf(VF)	vf(F)	c-vf(F)	gabbro gr.
201	器台	-	7.5YR5/6	f-vf(<VR)	c-vf(F)	f-vf(<VR)	vc-vf(VF)	
202	器台	-	10YR5/3	v(f-VR)	c-vf(F)			タリキト m-vf(F), chert gr. c-m(VR)
203	器台	19.4*18.7*17.210YR5/3	v(f-R)	m-vf(F)		v(f-R)		
204	器台	47.2-	2.5YR6/6	m-vf(VF)	c-vf(F)	v(f-<VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
205	甕	(底)5.5	10YR6/3	f-vf(VR)	c-vf(VF)	f-vf(<VR)	c-vf(VF)	
206	甕	11.6-	10YR2/1		ve-vf(VF)	v(f-VR)	vc-vf(VF)	
207	甕	15.2-	2.5Y5/3	f-vf(VR)	c-vf(F)	v(f-<VR)	m-vf(VF)	
208	甕	18.2-	7.5YR4/3		ve-vf(F)	v(f-VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
209	甕	15.4-	7.5YR6/4		ve-vf(F)	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
210	ミニアズ鉢	8.0*4.5*3.9	7.5YR6/4	m-vf(F)	vc-vf(VF)	v(f-VR)	vc-m(VF)	
211	ミニアズ鉢	6.4*5.5*2.8	7.5YR6/3	f-vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(R)	タリキト(F)	
212	ミニアズ甕	2.6*5.8*2.0	10YR5/2	c(VR)	vc(VF)	v(f-VR)		
213	ミニアズ甕	5.8-	7.5YR7/3		m-vf(F)		vc-vf(VF)	
214	ミニアズ鉢	9.6*5.4*4.5	7.5YR7/3	vf(<VR)	vc-vf(VF)	vf(<VR)	c-vf(VF)	
215	甕	15.0-	10YR5/3	m-f(A)	c-vf(VF)		c-vf(VF)	
216	甕	16.0-	10YR5/3	vf(<VR)	m-vf(VF)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	
217	甕	16.2-	7.5YR7/2	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	<vf(<VR)	vc-vf(VF)	
218	甕	13.4-	5YR4/2	v(f-<VR)	vc-vf(F)	v(f-R)	c-vf(VF)	タリキト m-f(F)
219	甕	(底)5.4	10YR5/4	v(f-VR)	c-vf(VF)	v(f-VR)	c-vf(F)	
220	甕	18.0-	7.5YR5/3	f-vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	
221	甕	18.4-	5YR6/6	v(f-<VR)	vc-vf(VF)	v(f-<VR)	vc-vf(VF)	タリキト m-f(R)
222	甕	15.3*29.0*4.8	10YR6/4	m-vf(F)	v(f-R)	vc-vf(VF)		
223	甕	20.8-	7.5YR5/4	f-vf(<VR)	c-vf(F)	f-vf(VR)	m-vf(VF)	
224	甕	16.5*21.7*4.8	10YR5/3	vc-vf(VF)				
225	広口甕	30.4-	5YR6/4	<vf(<VR)	vc-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
226	広口甕	14.4*21.5*5.0	2.5YR5/8	c-vf(F)	vc-vf(VF)			タリキト(R), granite gr. ,chert gr.
227	広口甕	14.21-	5YR6/4		vc-vf(F)		vc-vf(VF)	
228	広口甕	12.6-	10YR6/2	v(f-R)	m-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr.(F)
229	長頸甕	(底)4.6	10YR6/4	v(f-VR)	c-vf(F)		c-vf(VF)	gabbro gr.
230	長頸甕	(底)5.6	7.5YR6/3	v(f-VR)	vc-vf(F)	m-vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
231	長頸甕	(底)5.6	7.5YR6/3	m-vf(F)	vc-vf(VF)	v(f-VR)	m-vf(VF)	
232	長頸甕	(底)4.8	2.5Y4/6	v(f-R)	c-vf(VF)		m-vf(VF)	
233	鉢	23.8*17.0*7.0	2.5Y4/6	f-vf(VR)	m-vf(VF)	f-vf(VR)	c-vf(VF)	

遺物観察表(5)

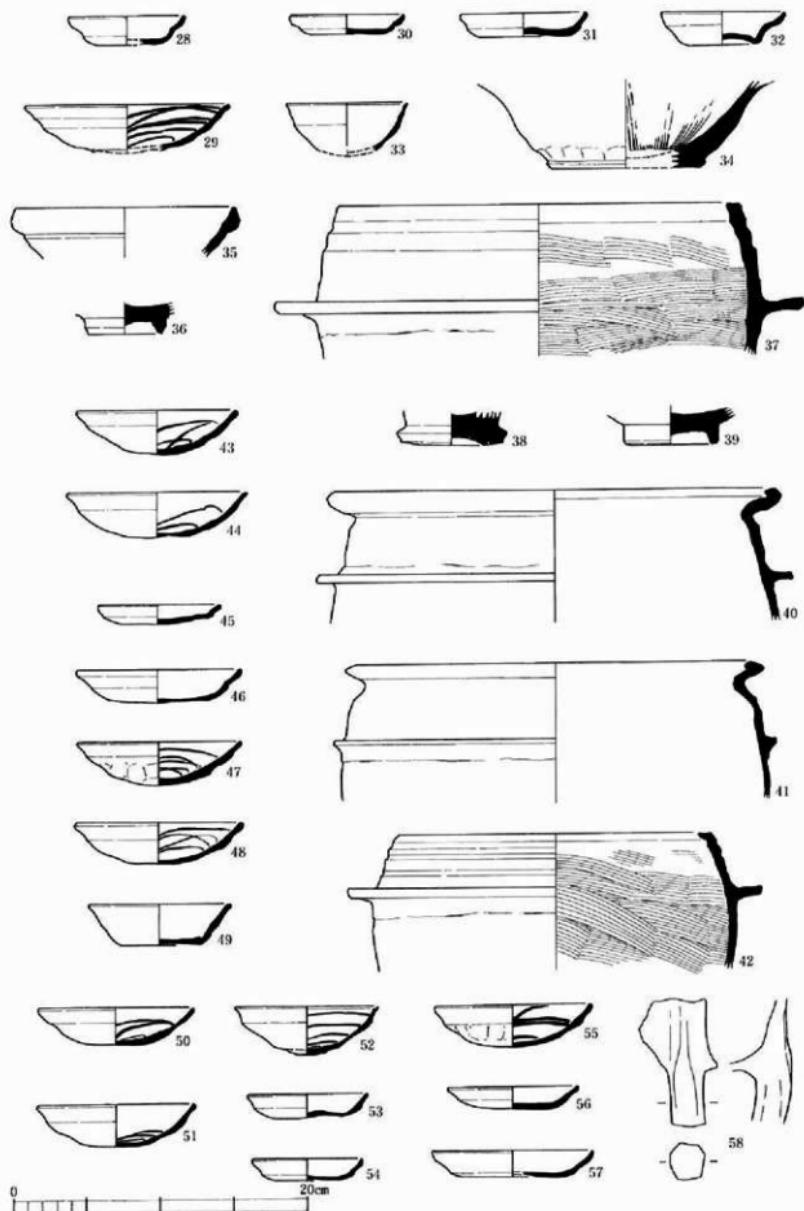
報告番号	器種	法量	色調	石英	長石	雲母	角閃石	その他
234	鉢	17.2-	7.5YR5/4	vf(R)	m-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	
235	高杯	23.2-	7.5YR6/4	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	granite gr.
236	高杯	25.2-	2.5YR7/6		m-vf(VF)	vf(R)	c-vf(VF)	gabbro gr.
237	高杯	(底)14.2	10YR6/4		c-vf(F)			里カリキ(F), A?, 赤津ルキ(F)
238	高杯	(底)13.6	10YR5/4		c-vf(F)		vc-vf(VF)	
259	高杯	-	5YR6/6	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	c-vf(VF)	
240	高杯	(底)18.4	10YR6/3		c-vf(F)		c-vf(VF)	
241	高杯	(底)14.4	5YR8/3		vc-vf(F)		vc-vf(VF)	gabbro gr.
242	高杯	11.8*13.8*7.1	10YR6/3	vf(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	
243	高杯	(底)12.4	7.5YR6/3		vc-vf(F)	vf(VR)	c-vf(VF)	granite gr.
244	高杯	(底)10.2	7.5YR6/4	<vf(VR)	c-vf(F)	<vf(<VR)	f-vf(VR)	ナリルキ m-vf(VF)
245	器台	9.4*14.5*16.4	10YR5/3		c-vf(VF)		vc-vf(VF)	
246	器台	21.4*18.4*17.0	10YR6/4					
247	器台	24.2*	7.5YR5/4	vf(VR)	c-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	gabbro gr.
248	器台	22.4*	5YR6/3	vf(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	granite gr.
249	器台	22.6*26.8*13.6	5YR5/6	vf(R)	f-vf(F)	vf(<VR)	f-vf(F)	
250	器台	(底)16.4	10YR6/4					
251	器台	16.8*13.0*13.0	10YR6/3	vf(VR)	c-vf(F)		vc-m(VF)	
252	器台	11.1*	7.5YR5/3	<vf(<VR)	vc-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
253	器台	24.6*23.3*12.6	5YR5/4	vf(<VR)	vc-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	ナリルキ m-vf(R)
254	器台	-	7.5YR7/4	vf(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	granite gr.
255	壳	12.8*8.4*4.3	10YR4/4	vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(F)	vc-vf(VF)	
256	壳	12.6*10.2*3.8	2.5YR4/3	vf(VR)	c-vf(VF)		c-vf(VF)	gabbro gr.
257	壳	12.7*12.0*4.8	7.5YR5/3				vc-vf(VF)	
258	壳	12.1*14.7*5.9	7.5YR6/3	f-vf(VR)	vc-vf(F)	<vf(<VR)	vc-vf(VF)	
259	壳	14.0*	10YR6/3	c-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)		
260	壳	17.4*	10YR6/3	m-vf(VR)	vc-vf(F)	<vf(<VR)	vc-vf(VF)	
261	壳	12.3*15.3*4.8	7.5YR6/3	vf(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
262	壳	18.4*	5YR5/4		m-vf(VF)	vf(R)	c-vf(VF)	gabbro gr.
263	壳	14.6*	5YR6/6	vf(<VR)	m-vf(F)		c-vf(VF)	chert gr. vf(VR)
264	壳	19.6*	10YR5/4		c-vf(F)		vc-vf(VF)	
265	壳	16.6*	7.5YR6/6	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	granite gr.
266	壳	40.2*	7.5YR7/4	f-vf(VR)	vc-vf(F)	f-vf(VR)	vc-vf(VF)	
267	壳	18.2*19.6*5.6	10YR5/2	f-vf(R)	c-vf(VF)	f-vf(R)	vc-vf(VF)	
268	壳	18.0*	2.5YR6/6	c-vf(F)	vc-vf(VF)			ナリルキ (R), granite gr. chert gr.
269	壳	16.4*	5YR6/4		c-vf(F)		vc-vf(VF)	ナリルキ (VR)
270	壳	15.4*4.8	7.5YR7/4	vf(VR)	c-vf(F)	vf(VR)	c-vf(VF)	
271	土製品(泥状)	9.0*9.1*16.0	10YR5/4	c-vf(<VR)	c-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
272	土製品(円筒形)	5.6*10.2*4.3	10YR6/4	vf(<VR)	vc-vf(VF)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	
273	土製品(舟形) (現存氏)	6.8	10YR5/4	vf(R)	c-vf(VF)			
274	レバーハンドル	5.0*	10YR6/4	vf(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	
275	広口壺	17.2*	7.5YR6/4	f-vf(VR)	m-vf(VF)	f-vf(VR)	c-vf(VF)	
276	広口壺	14.0*	10YR7/3	c(VR)	vc(VF)	vf(VR)		
277	受口状口縁壺	21.0*	10YR7/3		vc-vf(VF)	vf(VR)	vc-vf(VF)	
278	広口壺	21.2*	5YR6/4	c-vf(F)			c-vf(VF)	
279	広口壺	14.2*	2.5YR4/8		vc-vf(F)		vc-vf(VF)	
280	細颈壺	8.2*	7.5YR7/4	c-vf(F)			c-vf(VF)	
281	広口壺	34.4*	2.5YR6/6	vf(<VR)	vc-vf(VF)	vf(<VR)	vc-vf(VF)	ナリルキ m-f(R)
282	広口壺	30.4*	5YR6/3		vc-vf(F)	vf(VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
283	無颈壺	12.0*	10YR5/3	vf(VR)	vc-vf(VF)			chert gr. m-f(VR)
284	鉢	14.6*	2.5YR6/4	vf(R)	m-vf(VF)	vf(VR)	c-vf(VF)	
285	高杯	21.0*	5YR5/6	m-vf(F)	vc-vf(VF)	vf(F)		ナリルキ (R)
286	鉢	14.2*	10YR6/3	f-vf(<VR)	vc-vf(F)	f-vf(<VR)	vc-vf(VF)	gabbro gr.
287	黒頸瓶	11.2*	10YR6/3	vf(<VR)	c-vf(F)	vf(<VR)	c-vf(VF)	
288	鉢	26.0*21.0*15.9	10YR5/4	vf(VR)	c-vf(VF)			ナリルキ m-vf(R), chert gr. c-m(VR)
289	鉢	50.0*	7.5YR6/4		m-vf(F)	vf(R)	vc-vf(VF)	



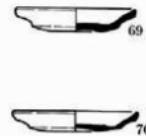
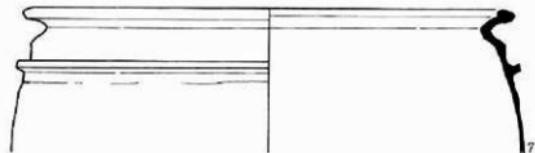
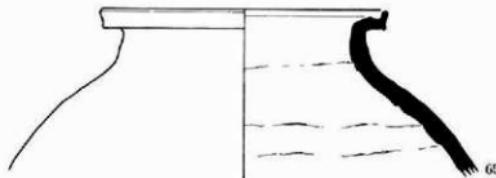
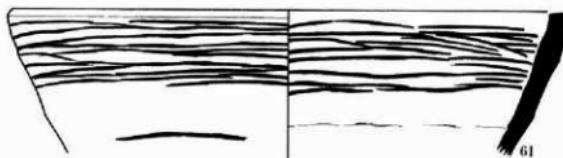
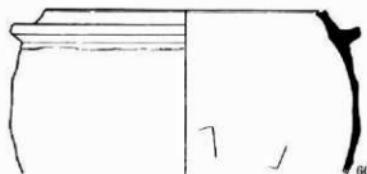
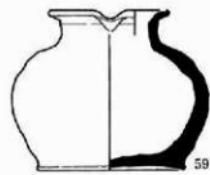
1~5 井戸34出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器 皿 釜 瓦器 梱釜。10~13 井戸39出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器 皿 須恵器 甕 瓦器 釜 陶器 壺。



14 井戸 41 出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器 皿。15～16 井戸 45 出土の鎌倉・室町時代の土器 瓦器 鉢 須恵器 壺。17～19 井戸 46 出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器 皿 瓦器 皿 釜。20 井戸 47 出土の鎌倉・室町時代の土器 陶器 壺。21～23 井戸 49 出土の鎌倉・室町時代の土器 陶器 鉢 瓦器 握り鉢 釜。24～29 井戸 50 出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器 釜 皿 瓦器 金 槌 陶器 握り鉢



30～37 井戸51出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 瓦器 槽 揺り鉢 釜 磁器 梶。38～42
井戸52出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器 釜 須恵器 揆り鉢 磁器 梶 瓦器 釜。43～44
井戸54出土の鎌倉・室町時代の土器 瓦器 槽。45～49 井戸57出土の鎌倉・室町時代の土器 土
師器皿 瓦器 槽 磁器皿。50～54 井戸56出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 瓦器 槽。
55～61 井戸58出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 瓦器 槽 三足釜 釜 火舍 須恵器 壺



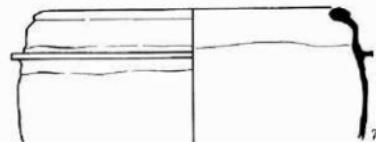
62～65 井戸 59 出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 瓦器 槌鉢 陶器 壺。66～71 井戸 62
出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 盖 瓦器 槌皿



72



73



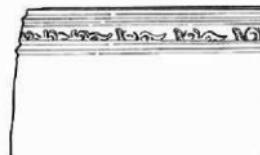
74



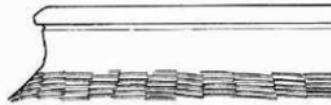
75



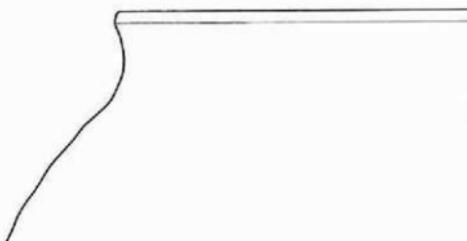
76



77



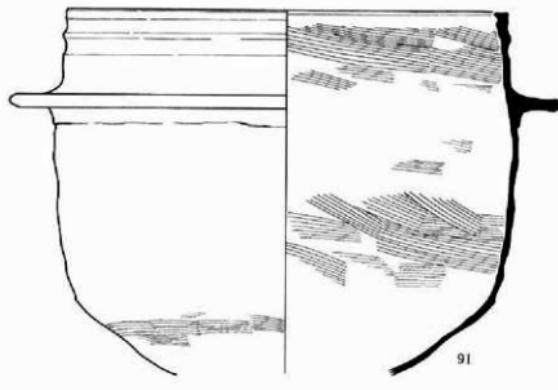
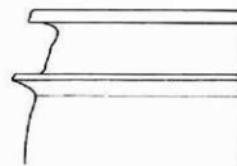
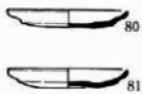
78



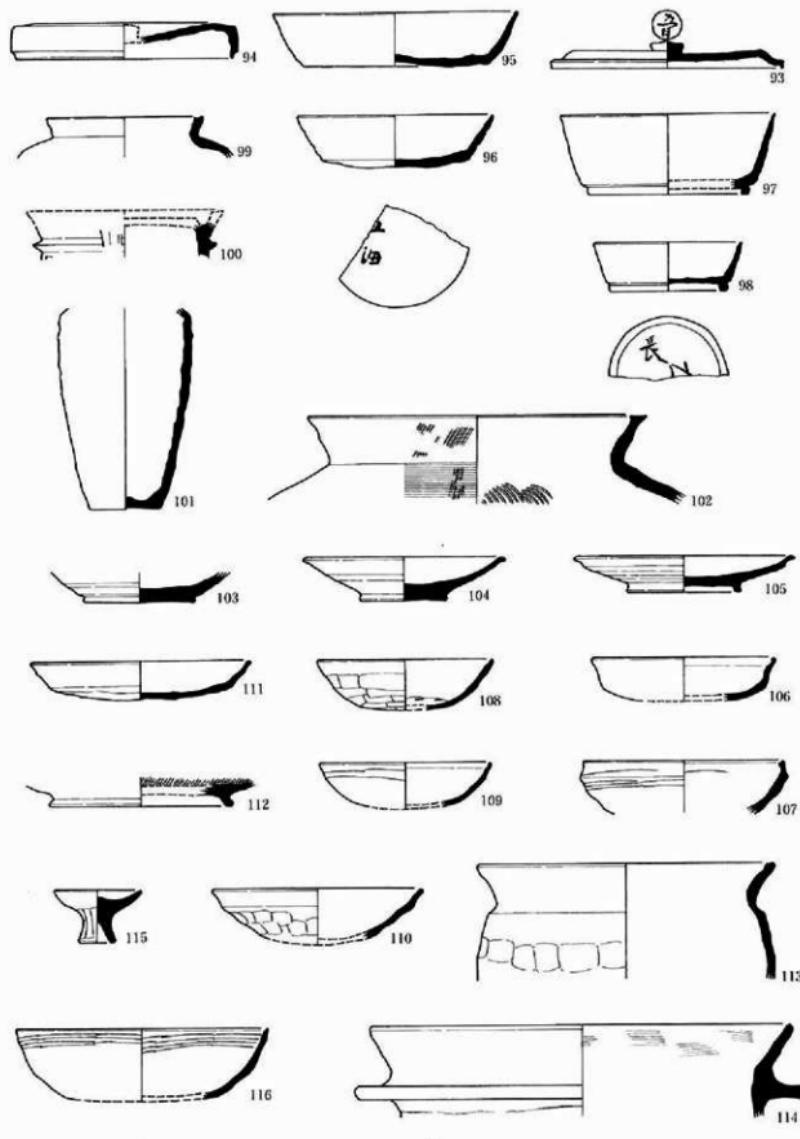
79



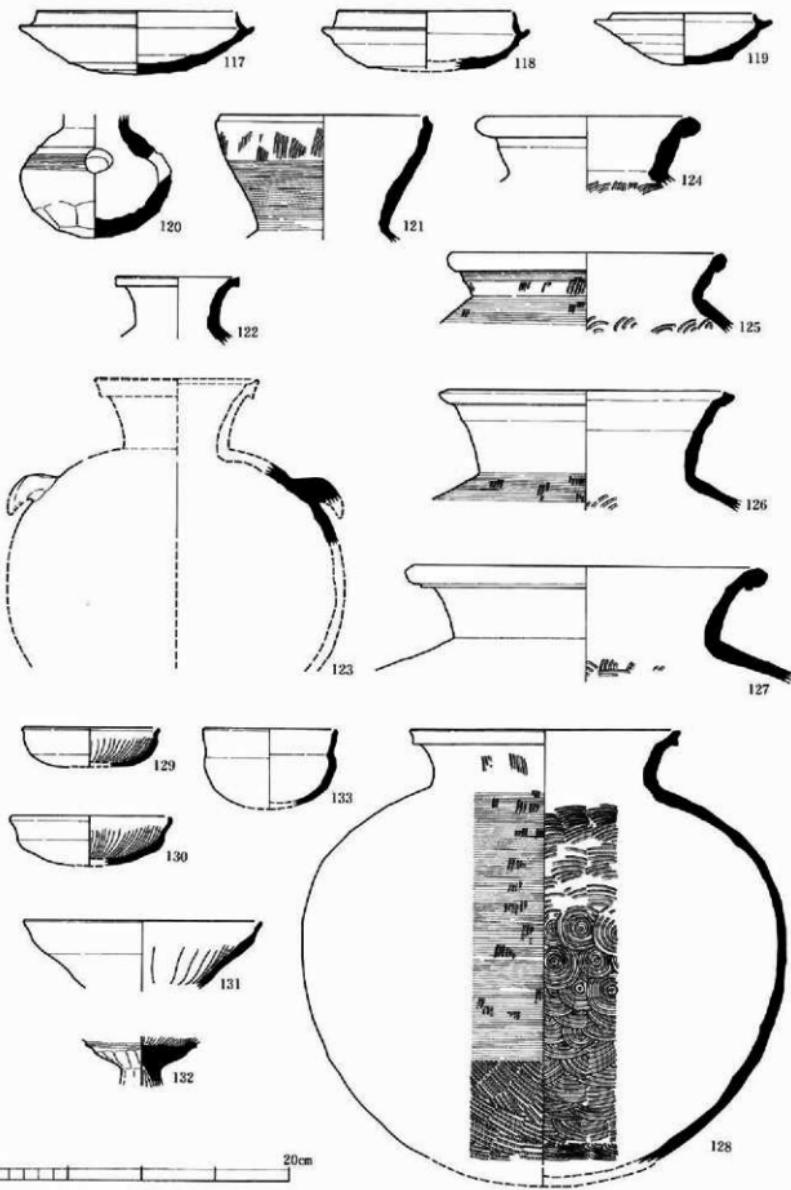
72～74 溝95出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿釜。75～76 溝93出土の鎌倉・室町時代の土器 瓦器 梱甕。77～79 溝89出土の鎌倉・室町時代の土器 須恵器壺 瓦器鉢甕



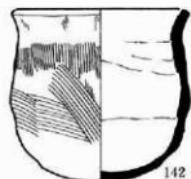
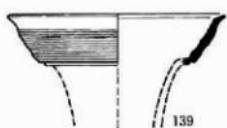
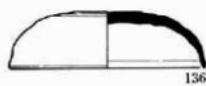
80～83 ピット472出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 瓦器 椽。84～90 建物11ピット
05出土の鎌倉・室町時代の土器 土師器皿 椽 羽釜 瓦器 椽。91～92 建物05ピット09出土の
鎌倉・室町時代の土器 瓦器 釜 握り鉢



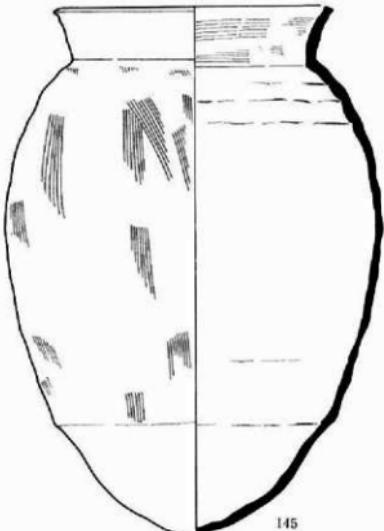
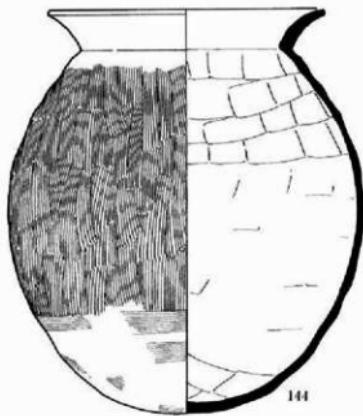
93～116 奈良・平安時代の土器 土師器 杯 梶皿 麗羽釜 高杯 須恵器 蓋杯 壺 円面視 緑釉陶器
梶皿 灰釉陶器皿 黒色土器 梶



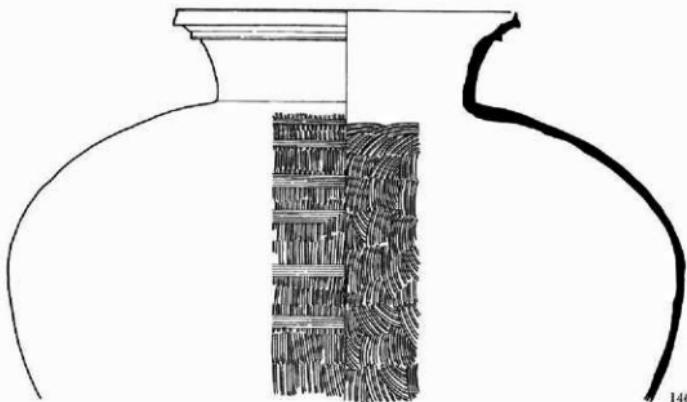
117～133 古墳時代後期の土器 土師器 杯 高杯 壺 須恵器 槍杯 はそう 壺 提瓶 横瓶 壺



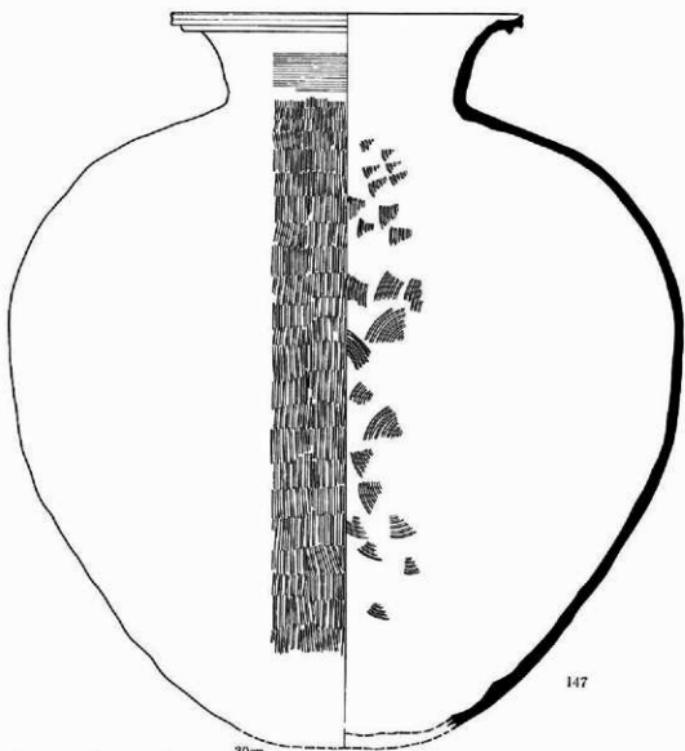
0 20cm



134～145 古墳時代後期の土器 須恵器 蓋 杯 はそう 土師器 杯 壺 支脚



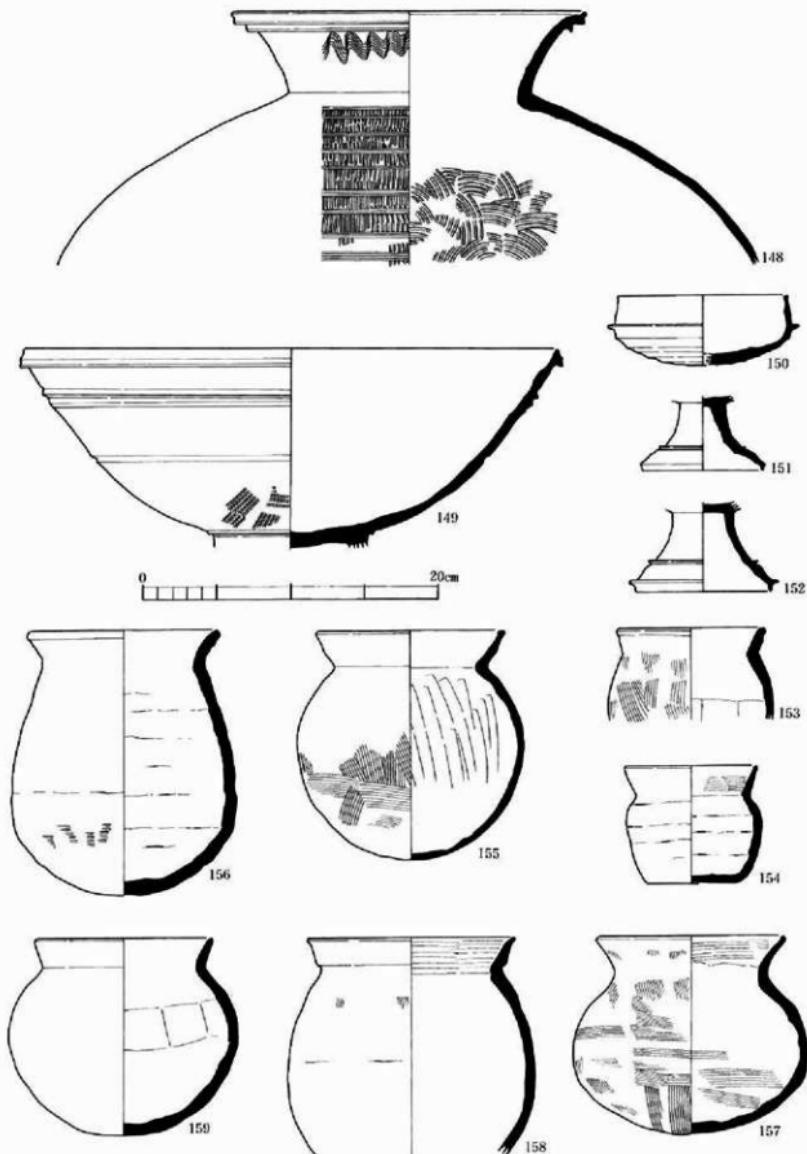
146



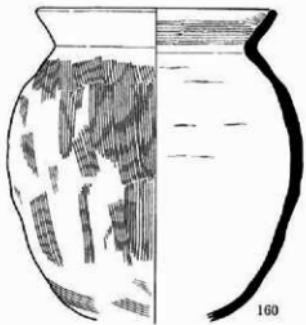
147

0 20cm

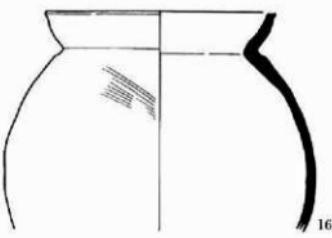
146・147 古墳時代中期の土器 須恵器 壺



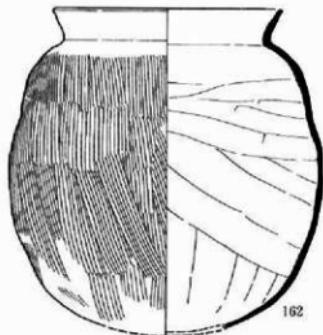
148～159 古墳時代中期の土器 須恵器 杯 高杯 器台 壺 土師器 壺 韓式系土器 壺



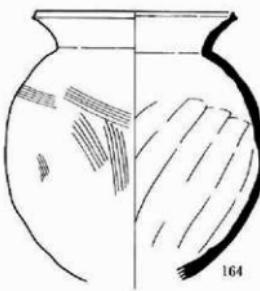
160



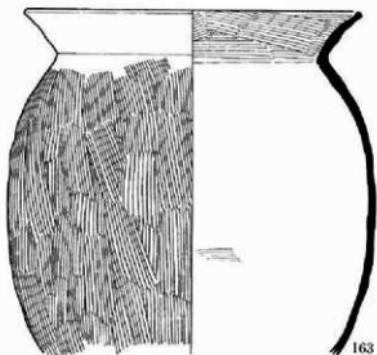
161



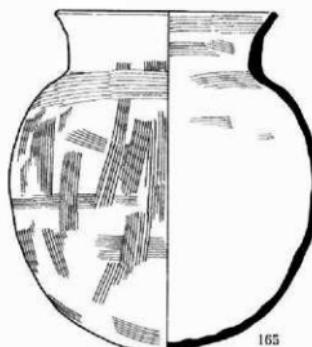
162



164



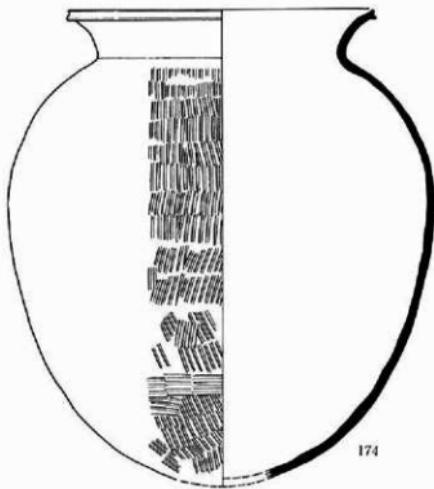
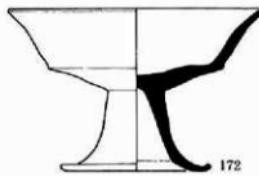
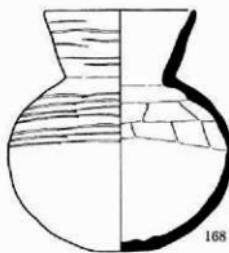
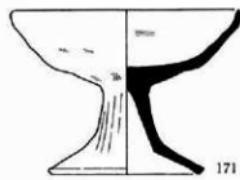
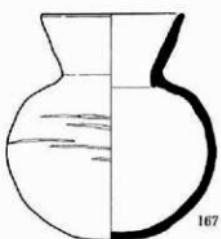
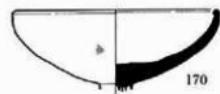
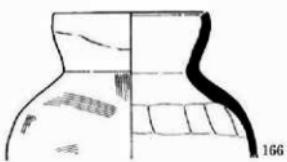
163



165

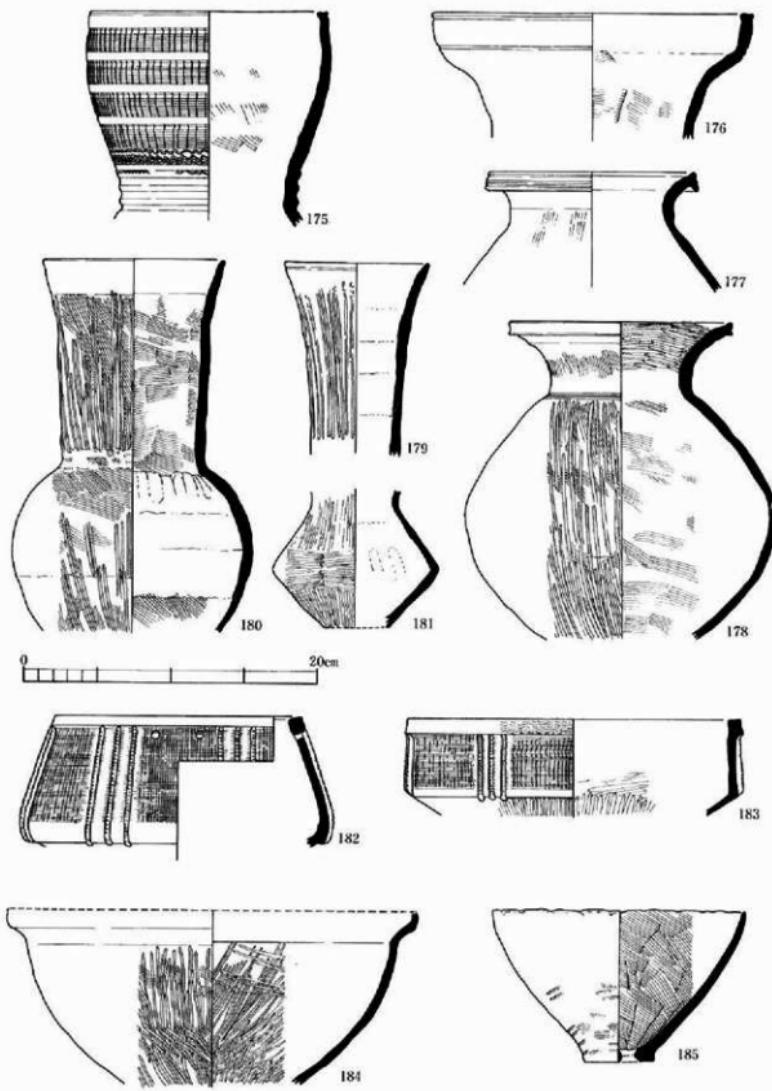
A horizontal scale bar at the bottom of the page, marked from 0 to 20 cm in increments of 2 cm.

160～165 古墳時代中期の土器 土師器 瓢

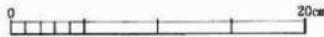
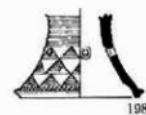
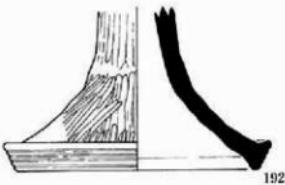
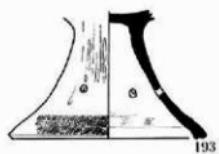
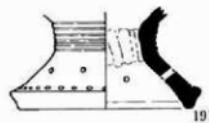
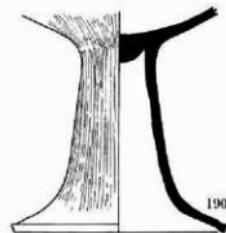
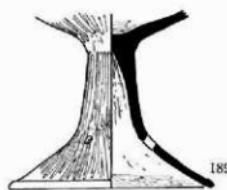
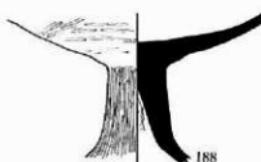
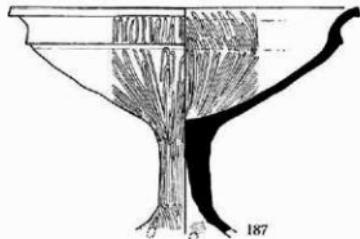
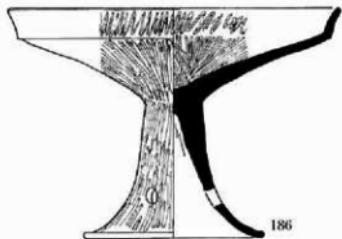


0 20cm

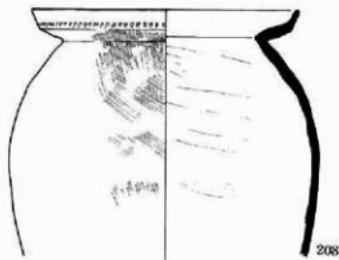
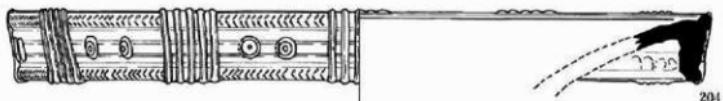
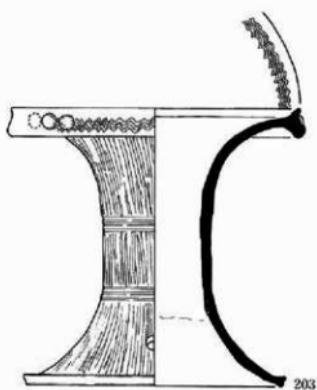
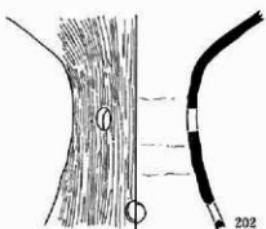
166～174 古墳時代中期の土器 土師器 壺 高杯 韓式系土器 壺 鉢



谷1下層上部の弥生土器。壺(細頸壺 175、広口壺 177・178、受口状口縁壺 176、長頸壺 179-181)、鉢あるいは台付鉢(182-185)。



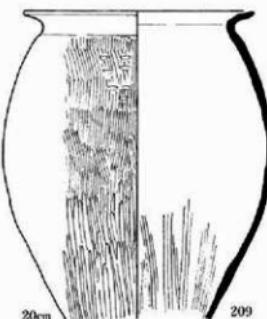
谷1下層上部の弥生土器。高杯(186-190・195・196)、鉢の脚台部(191-194)、蓋(199・200)。



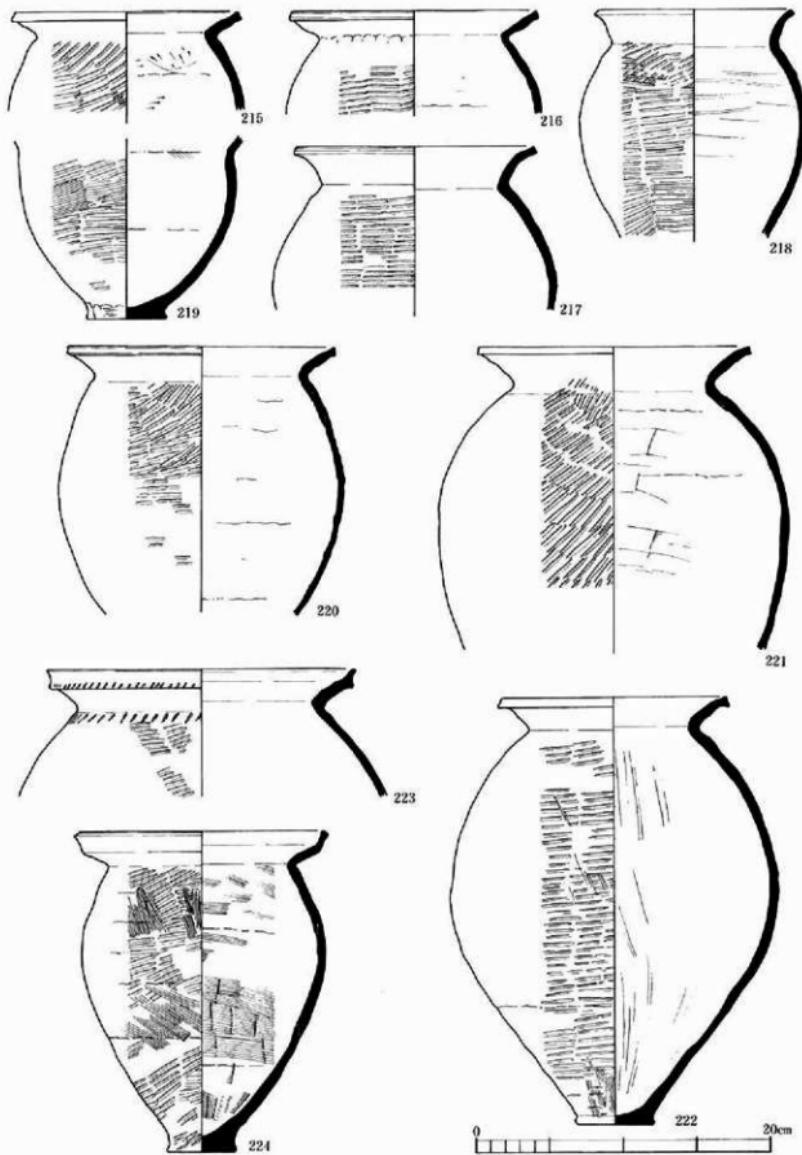
213



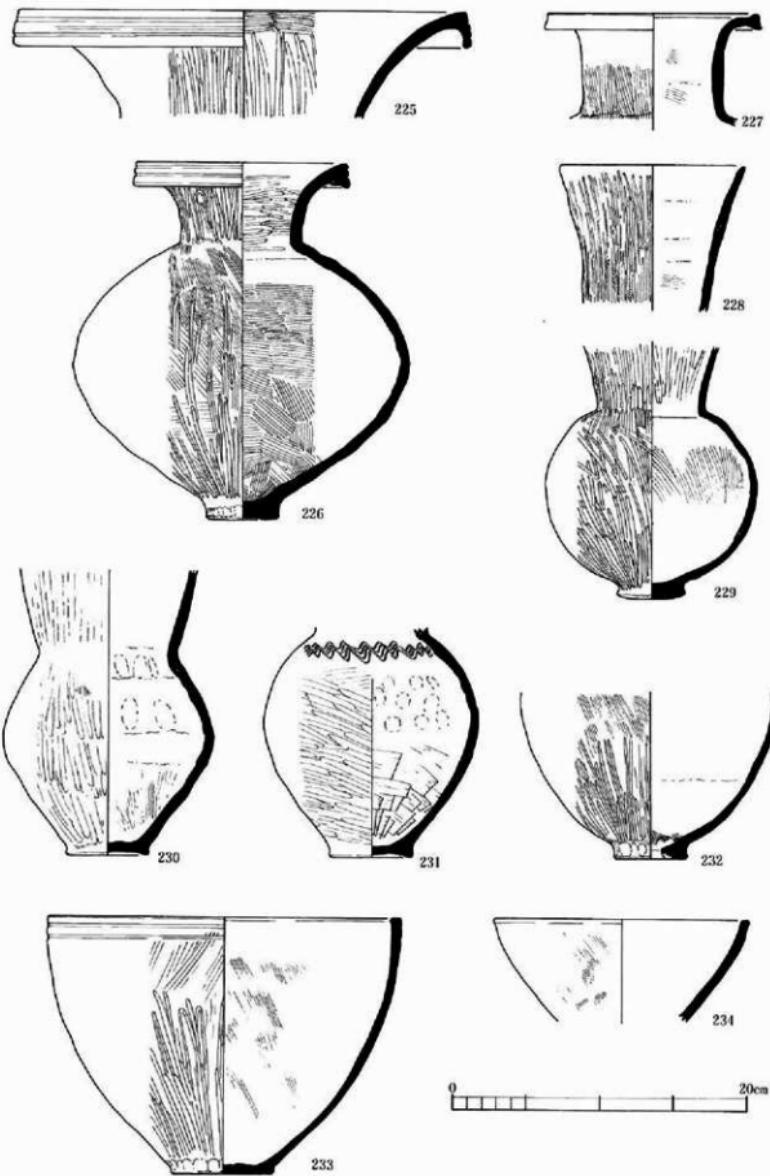
214



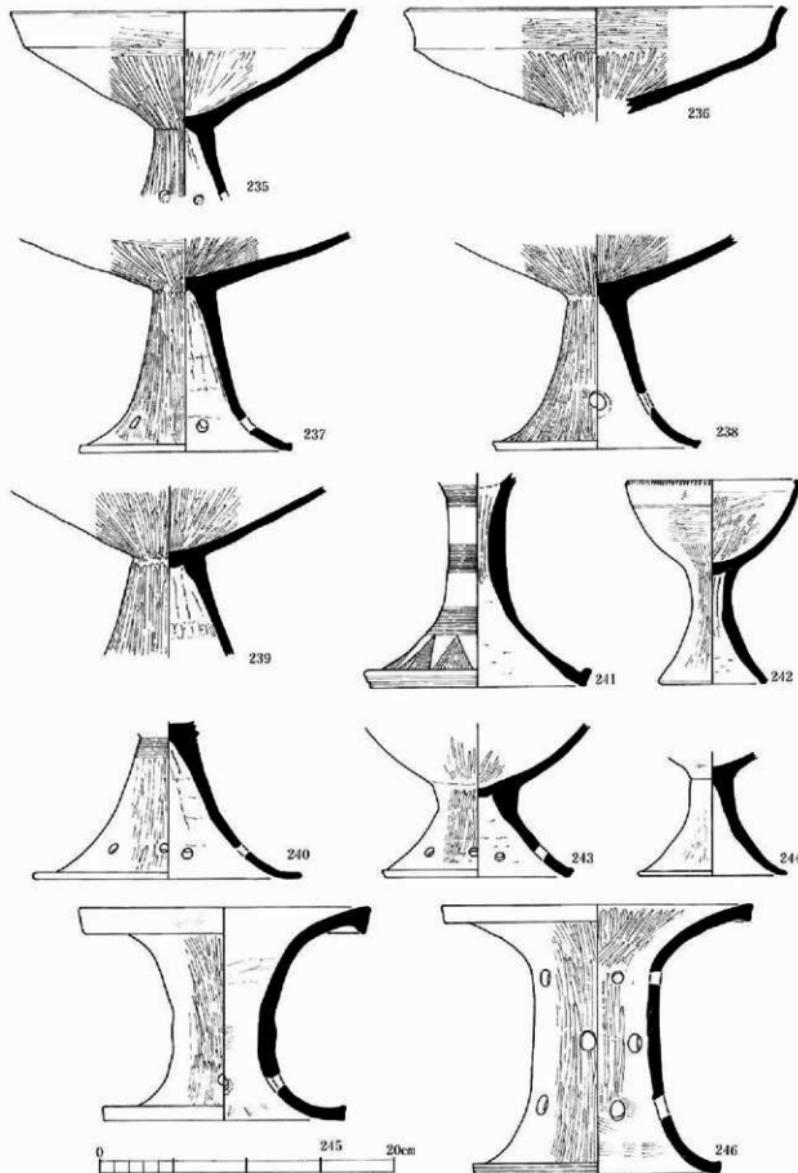
谷1下層上部の弥生土器。器台(201-204)、壺(205-209)、鉢、壺、甕のミニチュア土器(210-214)。



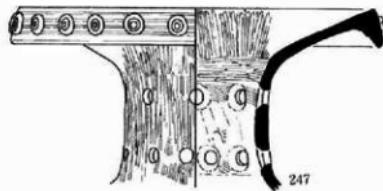
谷1下層中部の弥生土器。甕(215-224)。



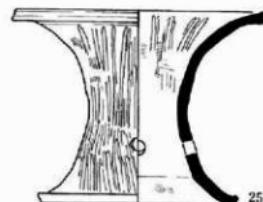
谷 1 下層中部の弥生土器。壺（広口壺 225-227、長頸壺 228-232、鉢 233・234）。



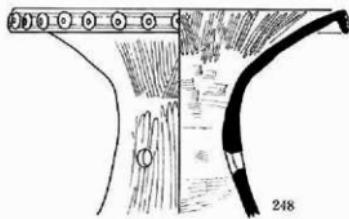
谷1下層中部の赤生土器。高杯(235-244)、器台(245・246)。



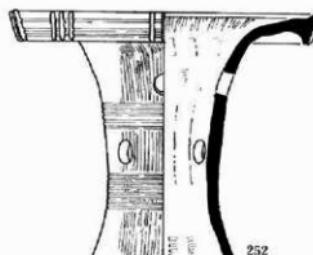
247



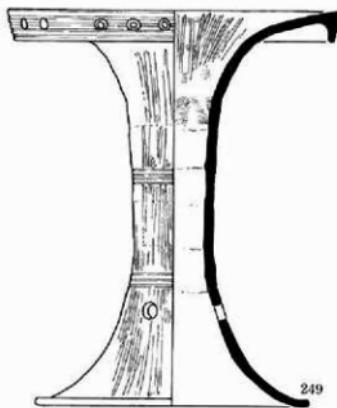
251



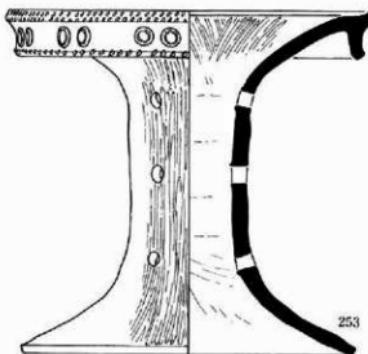
248



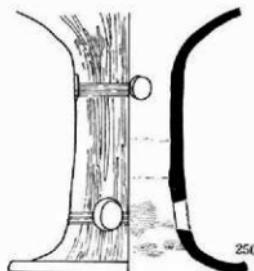
252



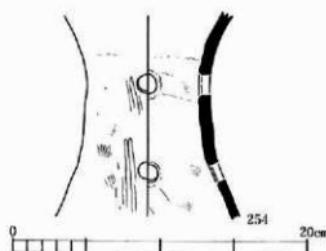
249



253



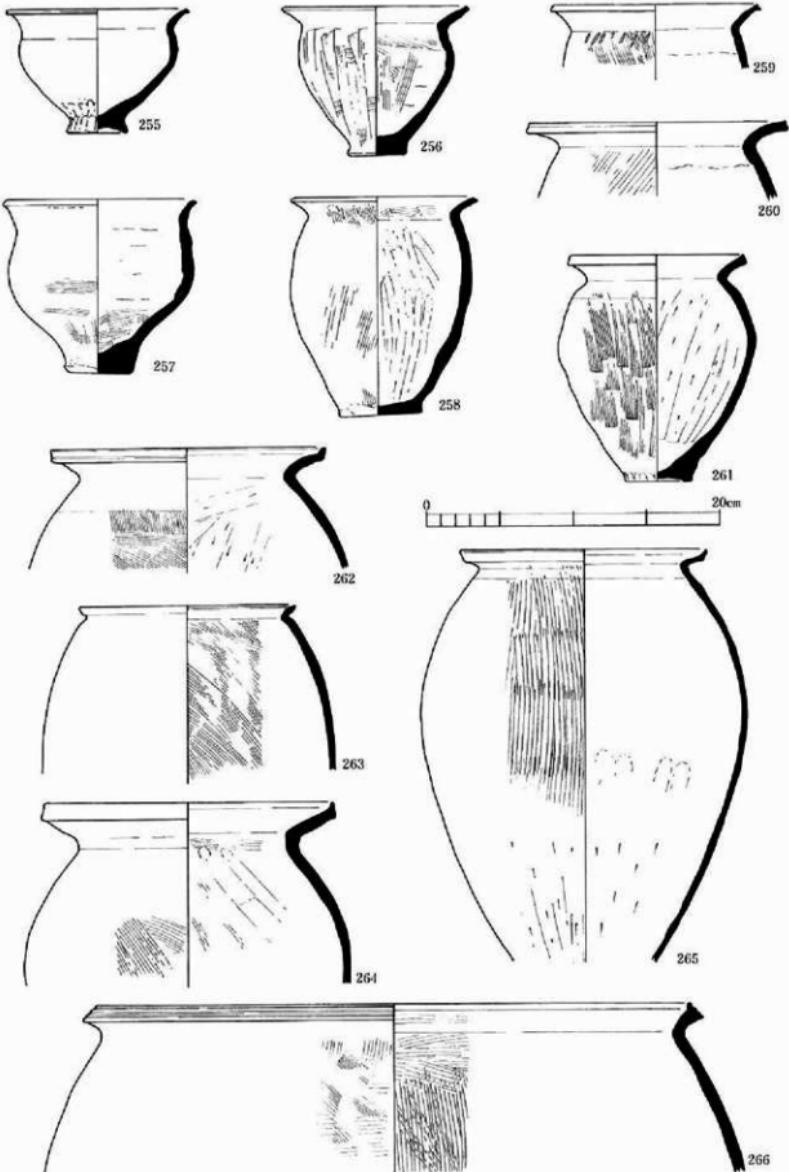
250



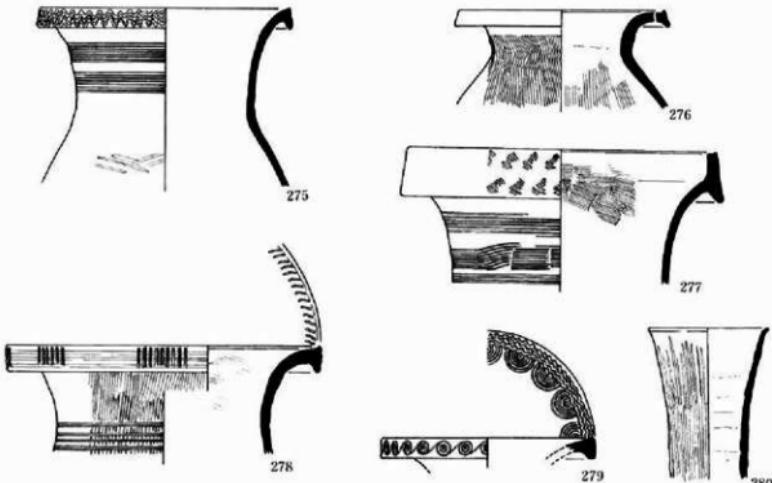
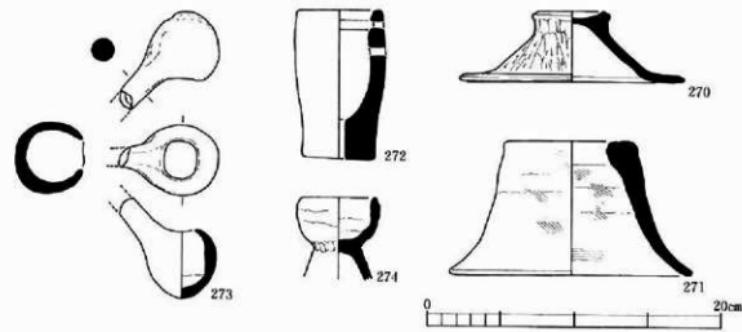
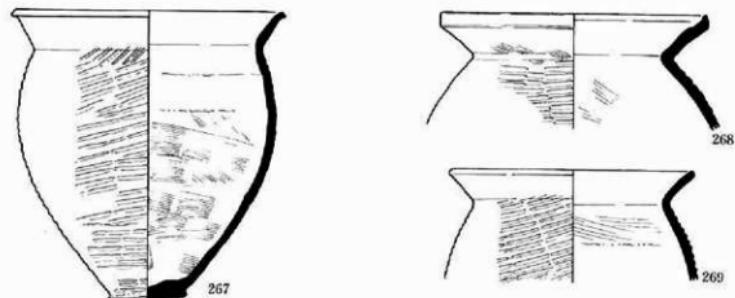
254

20cm

谷1下層中部の弥生土器。器台(247-254)。

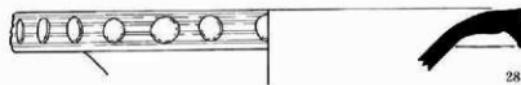


谷1下層中部の弥生土器。甌(255-266)。

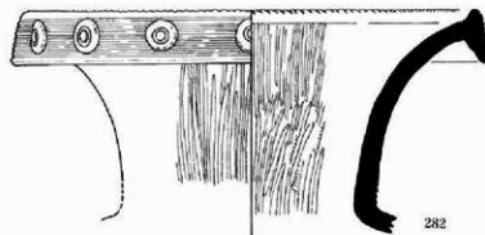


谷1下層中部の弥生土器。壺(267-269)、蓋(270)、漏斗形(271)、有孔・筒形(272)、杓子形(273)の土製品と台付鉢ミニチュア土器(274)。

44 谷1下層下部の弥生土器。壺（広口壺 275-279、長頸壺 280）。



281



282



283



285



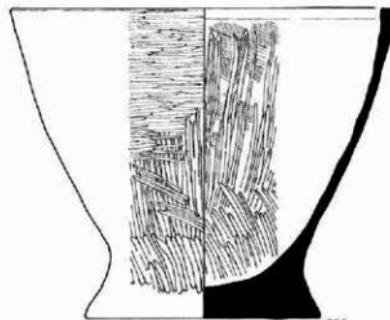
284



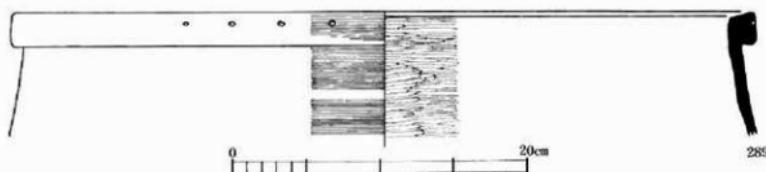
285



286



287



288

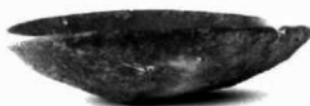
谷1下層下部の弥生土器。壺(広口臺 281・282、無頸臺 283・287、鉢ないし台付鉢 284-286・289、鉢ないし台状土製品 288)。



1



2



3



8



9



10



11



5



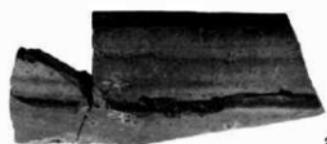
4



7



13



21



14



23



19



24



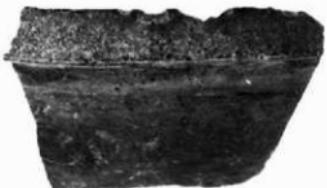
18



26



29



27



43



44



35



30



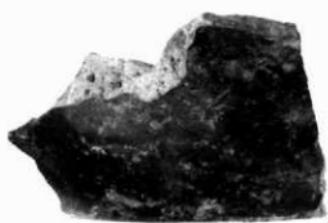
31



36



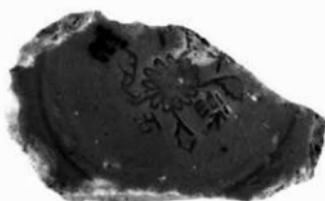
32



34



33



39



40



42





50



55



51



54



52



45



47



46



48



49



63



59



55



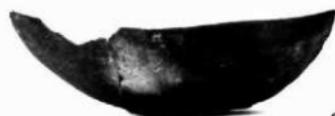
59



56



60



66



69



69



70



68



71



72



73



79



75



76



77



84



85



87



86



88



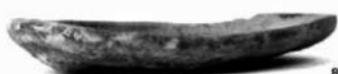
90



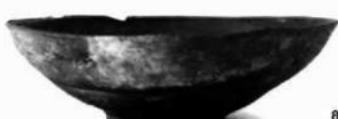
89



80



81



82



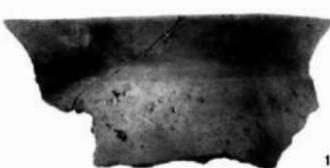
83



91



108



113



105



114



104



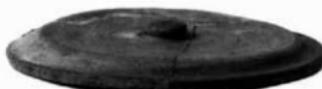
115



103



95



93

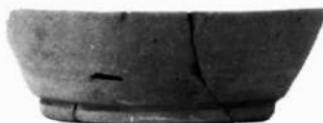
96



100



99



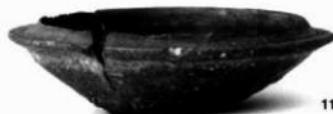
98



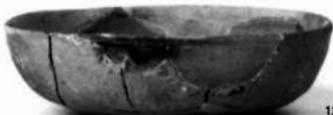
97



101



119



129



120



133



127



121



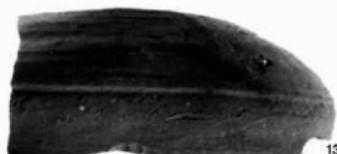
126



122



128



139



140



141



144



142



143



145



146



153



148



149



154



151



152



155



156



157



159



158



160



161



163



162



165



164



169



170



171



166



172



167



173



168



290



293



291



294



292



295



175



177



176



178



180



179



182



186



183



187



185



189



191



195



192



193



196



194



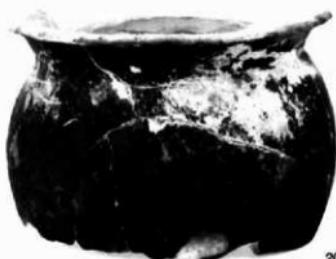
198



207



204



206



203



205



208



209



216



218



215



220



217



219



221



222



224



210



214



211



212



225



228



227



226



230



229



231



234



230



233



235



243



238



242



241



245



247



248



246



252



251



249





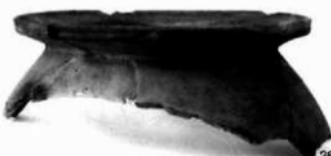
259



260



261



262



263



265



264



266



268



269



272



297



270



273



296



296



297



277



275



276



279



299



300



278



301



280



281



262



302



303



304



283



289



285



284



286



305



308



309



306



307



310



311



315



312



316



313



314



317



318



319



323



320



321



324



322



325



326



329



327



328



330

報告書抄録

にしのつじいせきだい16 にはぐくつちょうさはうこくしょ（いぶつへん）

書名 西ノ辻遺跡第16次発掘調査（遺物編）

編著者名 松田順一郎、中西克宏

編集機関

発行機関 財団法人 東大阪市文化財協会

発行年月日 2002年12月31日

作成法人ID 42710

郵便番号 577-0843

住所 東大阪市荒川3丁目 28-21

電話番号 06-6736-0346

にしのつじいせき

遺跡名 西ノ辻遺跡

市町村コード 27227

遺跡番号 34

ひがしおおさかにしいしきりちょうじょうめ

遺跡所在地 東大阪市西石切町1丁目

位置 北緯 34° 40' 48.2" 東経 135° 38' 32.0" (JGD2000)

調査期間 1984年5月24日～1985年4月3日

調査面積 2827m²

調査原因 鉄道および道路建設

種別 集落、水利遺構、埋没流路

主な時代 弥生時代中・後期、古墳時代中・後期、奈良時代、鎌倉・室町時代

遺跡概要
弥生時代中・後期の遺物は埋没開析流路から検出された。埋没開析流路では古墳時代中期の水利遺構、6・7世紀および奈良時代の堆積層とそれらに伴う遺物(土師器、須恵器、輪式系土器など)が検出された。流路埋没後に形成された鎌倉・室町時代の集落跡を構成する井戸、土塁、溝、掘立柱建物跡、ピットなどとともに、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、木器(曲物、木札など)が出土した。

特記事項 なし

西ノ辻遺跡第16次発掘調査報告書（遺物編）

発行年月日 2002年12月31日

発 行 財団法人東大阪市文化財協会

〒577-0843 東大阪市荒川3丁目28-21

電話 06-6736-0346

印 刷 株式会社ドウミ印刷広研社

〒536-0015 大阪市城東区新喜多1丁目8-19

電話 06-6930-4116